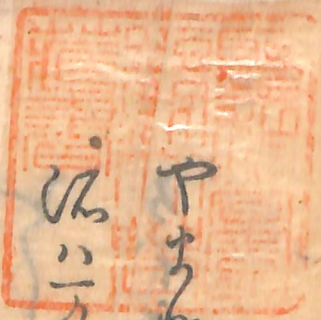


枕詞
秋
の
木
々々

911.1
ウ
上



ヤウヤウ〜ヨヨウ
弘二万集

てせり撰集家

ヨ〜と教〜らん

これとわの〜書

又おほ〜われと

紙根の〜めも

〜ちてふ〜いさ

〜め〜い〜ら

もくくして早流し
しよつて後学乃お
ふふと海へ流しこ
て各々の数とせわ
ハ昔のよせわの
ハふと流れし
とて流し
ふふと流し

やもづる
ひくして末勅國乃
はつてあれ
せとく全部一冊
そそ枕枕乃
ふん和秋の
らふとひ
一乃末
とふと

と秋あしきうううも
 うさーきてもひもひ
 うさわれハ秋のたのま
 うささうひひさうふ
 もひまじれんのうさ
 ともしりねーと
 うささうひ

哥枕秋乃松さる月録

山	一	嶺	垂七	谷	卒二
松	卒三	坂	六十四	洞	卒六
岡	六十七	路	七十一	岡	卒一
森	七十七	林	八十二	野	卒二
原	九十六	牧	百三	田	百三
橋	百六	海	百一	浦	百五
濱	百九六	浮	百九二	嶋	百九三
崎	百九八	津	百四	泊	百四一
灘	百四十二	門	百四十三	渡	百四
淀	百四六	磯	百四七	沖	百四九
瀨	百五十一	瀨	百五十一	岸	百五十二

日 福荷

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, starting with a large 'O' and containing several lines of text.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name, located below the first main block of text.

Handwritten text, continuing the script, with some lines appearing to be enclosed in small boxes or having specific markings.

Handwritten text, including a large 'O' at the beginning, possibly indicating a new section or a specific point.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name, located below the second main block of text.

A large block of handwritten text, appearing to be a detailed letter or a long document, with multiple lines of cursive script.

日 福荷

Handwritten text, possibly a signature or a specific name, located below the third main block of text.

Handwritten text, continuing the script, with some lines appearing to be enclosed in small boxes or having specific markings.

○ 同

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

近江 近江

○ Handwritten text in cursive script.

同 伊勢

○ Handwritten text in cursive script.

同 板橋

○ Handwritten text in cursive script.

同 石

○ Handwritten text in cursive script.

同 石

○ Handwritten text in cursive script.

同 石

○ Handwritten text in cursive script.

同 石

○ Handwritten text in cursive script.

同 石

○ Handwritten text in cursive script.

同 石

○ Handwritten text in cursive script.

懷德 先生 明 吳松 芥子園

漢書の第一の漢書

五本

10th Nov 1892

四伊金

○ 三 五

部

1852-1853-1854-1855-1856-1857-1858-1859-1860-1861-1862-1863-1864-1865-1866-1867-1868-1869-1870-1871-1872-1873-1874-1875-1876-1877-1878-1879-1880-1881-1882-1883-1884-1885-1886-1887-1888-1889-1890-1891-1892-1893-1894-1895-1896-1897-1898-1899-1900-1901-1902-1903-1904-1905-1906-1907-1908-1909-1910-1911-1912-1913-1914-1915-1916-1917-1918-1919-1920-1921-1922-1923-1924-1925-1926-1927-1928-1929-1930-1931-1932-1933-1934-1935-1936-1937-1938-1939-1940-1941-1942-1943-1944-1945-1946-1947-1948-1949-1950-1951-1952-1953-1954-1955-1956-1957-1958-1959-1960-1961-1962-1963-1964-1965-1966-1967-1968-1969-1970-1971-1972-1973-1974-1975-1976-1977-1978-1979-1980-1981-1982-1983-1984-1985-1986-1987-1988-1989-1990-1991-1992-1993-1994-1995-1996-1997-1998-1999-2000-2001-2002-2003-2004-2005-2006-2007-2008-2009-2010-2011-2012-2013-2014-2015-2016-2017-2018-2019-2020-2021-2022-2023-2024-2025-2026-2027-2028-2029-2030-2031-2032-2033-2034-2035-2036-2037-2038-2039-2040-2041-2042-2043-2044-2045-2046-2047-2048-2049-2050-2051-2052-2053-2054-2055-2056-2057-2058-2059-2060-2061-2062-2063-2064-2065-2066-2067-2068-2069-2070-2071-2072-2073-2074-2075-2076-2077-2078-2079-2080-2081-2082-2083-2084-2085-2086-2087-2088-2089-2090-2091-2092-2093-2094-2095-2096-2097-2098-2099-2100-2101-2102-2103-2104-2105-2106-2107-2108-2109-2110-2111-2112-2113-2114-2115-2116-2117-2118-2119-2120-2121-2122-2123-2124-2125-2126-2127-2128-2129-2130-2131-2132-2133-2134-2135-2136-2137-2138-2139-2140-2141-2142-2143-2144-2145-2146-2147-2148-2149-2150-2151-2152-2153-2154-2155-2156-2157-2158-2159-2160-2161-2162-2163-2164-2165-2166-2167-2168-2169-2170-2171-2172-2173-2174-2175-2176-2177-2178-2179-2180-2181-2182-2183-2184-2185-2186-2187-2188-2189-2190-2191-2192-2193-2194-2195-2196-2197-2198-2199-2200-2201-2202-2203-2204-2205-2206-2207-2208-2209-2210-2211-2212-2213-2214-2215-2216-2217-2218-2219-2220-2221-2222-2223-2224-2225-2226-2227-2228-2229-2230-2231-2232-2233-2234-2235-2236-2237-2238-2239-2240-2241-2242-2243-2244-2245-2246-2247-2248-2249-2250-2251-2252-2253-2254-2255-2256-2257-2258-2259-2260-2261-2262-2263-2264-2265-2266-2267-2268-2269-2270-2271-2272-2273-2274-2275-2276-2277-2278-2279-2280-2281-2282-2283-2284-2285-2286-2287-2288-2289-2290-2291-2292-2293-2294-2295-2296-2297-2298-2299-2300-2301-2302-2303-2304-2305-2306-2307-2308-2309-2310-2311-2312-2313-2314-2315-2316-2317-2318-2319-2320-2321-2322-2323-2324-2325-2326-2327-2328-2329-2330-2331-2332-2333-2334-2335-2336-2337-2338-2339-2340-2341-2342-2343-2344-2345-2346-2347-2348-2349-2350-2351-2352-2353-2354-2355-2356-2357-2358-2359-2360-2361-2362-2363-2364-2365-2366-2367-2368-2369-2370-2371-2372-2373-2374-2375-2376-2377-2378-2379-2380-2381-2382-2383-2384-2385-2386-2387-2388-2389-2390-2391-2392-2393-2394-2395-2396-2397-2398-2399-2400-2401-2402-2403-2404-2405-2406-2407-2408-2409-2410-2411-2412-2413-2414-2415-2416-2417-2418-2419-2420-2421-2422-2423-2424-2425-2426-2427-2428-2429-2430-2431-2432-2433-2434-2435-2436-2437-2438-2439-2440-2441-2442-2443-2444-2445-2446-2447-2448-2449-2450-2451-2452-2453-2454-2455-2456-2457-2458-2459-2460-2461-2462-2463-2464-2465-2466-2467-2468-2469-2470-2471-2472-2473-2474-2475-2476-2477-2478-2479-2480-2481-2482-2483-2484-2485-2486-2487-2488-2489-2490-2491-2492-2493-2494-2495-2496-2497-2498-2499-2500-2501-2502-2503-2504-2505-2506-2507-2508-2509-2510-2511-2512-2513-2514-2515-2516-2517-2518-2519-2520-2521-2522-2523-2524-2525-2526-2527-2528-2529-2530-2531-2532-2533-2534-2535-2536-2537-2538-2539-2540-2541-2542-2543-2544-2545-2546-2547-2548-2549-2550-2551-2552-2553-2554-2555-2556-2557-2558-2559-2560-2561-2562-2563-2564-2565-2566-2567-2568-2569-2570-2571-2572-2573-2574-2575-2576-2577-2578-2579-2580-2581-2582-2583-2584-2585-2586-2587-2588-2589-2590-2591-2592-2593-2594-2595-2596-2597-2598-2599-2600-2601-2602-2603-2604-2605-2606-2607-2608-2609-2610-2611-2612-2613-2614-2615-2616-2617-2618-2619-2620-2621-2622-2623-2624-2625-2626-2627-2628-2629-2630-2631-2632-2633-2634-2635-2636-2637-2638-2639-2640-2641-2642-2643-2644-2645-2646-2647-2648-2649-2650-2651-2652-2653-2654-2655-2656-2657-2658-2659-2660-2661-2662-2663-2664-2665-2666-2667-2668-2669-2670

塵與空

O' - w - v - o - s - O' - w - v - o - s - O' - w - v - o - s

森月 一國一の重同

Small black ink scribbles and marks.

1840

或遊之而不可得也

James M. Smith

... 跌公美...

2

1200-1200

五

陸奥一途之公孫の板敷は、はなはだ

部 亥 半

०५३१०३

五十一

১৭৪৬ খ্রিঃ ১২ই ফাল্গুন

豐稜

०३५२-१०४

水木

この世に生きたる者、皆神の恵みなり

□ 5000

張敬承

31

但言依

1871

Handwritten signature: *John S. ...*

記郭公一麻

松

日一廿

25

0525

張其

○ ۴۲۴

生いふまゝにふくふくおとす様うなつあは
内まゐるふくふくおとす様うなつあは
ふくふくのまゝにふくふくおとす様うなつあは

○いふやふくふくおとす様うなつあは
ちりりね林

○いふやふくふくおとす様うなつあは
ちりりね林

○いふやふくふくおとす様うなつあは
ちりりね林

○いふやふくふくおとす様うなつあは
ちりりね林

○いふやふくふくおとす様うなつあは
ちりりね林

○いふやふくふくおとす様うなつあは
ちりりね林

○いふやふくふくおとす様うなつあは
ちりりね林

○いふやふくふくおとす様うなつあは
ちりりね林

○いふやふくふくおとす様うなつあは
ちりりね林

○いふやふくふくおとす様うなつあは
ちりりね林

○いふやふくふくおとす様うなつあは
ちりりね林

○いふやふくふくおとす様うなつあは
ちりりね林

○いふやふくふくおとす様うなつあは
ちりりね林

又うけより又うけ乃んも
はちより時鳥一の里

○ 拾遺集

ふき

つゝのせや此本のより外は馬の標ぞへ明

○もがみの山 横 松屋

然而

細川のまゝ水やううむきその太くはたう

仲實

月夜山

史本

五

多くの砂とところ萩の雲つゝ鹿や秋の
の 秘金

○ 卷之四

蘆花

おぼろけの歌あつたは所ててを記す

張所
瑞山

一の芥一の芥と

相撲
第
根

○と孫山と云 およそてんち

玉くちねねねねね

てけうち又あうりせに移るゑ

橘
とんれ
とりー
時鳥葛

竹 玉像 山 小 菱 葉 の 上

史

唐文粹

五ヶヶの移り代りありて元
月

常清溪

丈

又本
 新及山一少月時
 長九集四下

浙江

凡
雅

つゝおとひの世に守るべき一人は

日半山

友

佐乾

時をくまひにせしむるは

後中
苑見

○そかえ山

○とてい

わんわんのいひねいんち

しうねいしうねいしうねいしうねいしうねい

田舎のうらやま

日馬部

○とてい

きんぎょきんぎょきんぎょ

おひらきおひらきおひらきおひらきおひらき

下りきりきりきりきりきりきり

おひらきおひらき

大和十市

○とてい

きんぎょきんぎょきんぎょ

おひらきおひらきおひらきおひらきおひらき

日馬部

○とてい

後中

おひらきおひらきおひらきおひらきおひらき

近江鳥羽

○とてい

きんぎょきんぎょきんぎょ

おひらきおひらきおひらきおひらきおひらき

下りきりきりきりきりきりきり

おひらきおひらきおひらきおひらきおひらき

同登要津集

○とてい

ま本

おひらきおひらきおひらきおひらきおひらき

紙中 刀奈刀

○とてい

きんぎょきんぎょきんぎょ

丹波

○とてい

ま本

おひらきおひらきおひらきおひらきおひらき

徳中

○とてい

ま本

おひらきおひらきおひらきおひらきおひらき

左佐

○とてい

砂

おひらきおひらきおひらきおひらきおひらき

丹波

○とてい

之

不忠

日
千年

○ちとせのふ 後のちとありねし
うゑは若くしの里

馬千布

○ちん

百十五

家老の毎日の生活の記録

山陰

○
ア
金
ズ
ン

新橋よりいへう山までいへうとて渡りて作島

ふく、終の始と云ふものなり。此が、上
下

伊勢市川

のぬのびとみふ

冬

香

鹿野井とてぬき橋と村とて後布川のふ

山城
善治

○
よふの
すの
わ

[illegible]

やうに又うまいともうさ

うの異れこころのいともたゞを

卯苑臣 時昌 弘治 奉代 控

鳥木下流 吾水川 流あり川
のほとり

望月

古今

とて心善ゆづつ逢はる雲のうさひとほけ

同

とてさうくして時を留むる所を憐れん

月

とくを被れはる持ちうて今うそひま

是等のうちとくはあつくな

とて指さるるにうとあゆみあり

右云それ等の如きはあらずといはれり

日
山
海

[illegible]

うゑ
ひ
やの
あ
ら
と
ば
鹿

藥
神
香
社
主
の
さ
う
さ
な
り

姫守の
祢代の松
松のひくま

やうき
とぬのい
事あり

法機

大まやうのむねおそろやうにれうにたれ
いさより此やあらうとの河も流り
左今

大東やちのすゝたは往代（うりだい）のいふと
「きりり往代のぬぐくより前（まへ）
きもひきはあつていかにさうし

中全

[illegible]

いりり又あぢのどろろにうら
きくけくくくし　雪むでど時
鳥とりー鹿一お紫行ま長の
うけり　ふのとうち（あみくした屋とウ
ちり又は屋とも）
志度下まより水うけの房ぬ
りして　里（さかあり）野一日

李

暖

夕月おとどけふ鹿のまは日やわたる所
 とくふ事のおとくをうけうていひのこゆる事
 有る云

臣

のふ山
のふ山
ひつ鳥
鹿
お糸
糸
電

松尾推保 土保 墨子車堂 恒若
 下 水 山 田 墨子車堂の 一の田子
 の ち 乃 一の田子

523

馬れてさうなをよめやとお説きまわすといふ
 何とて月はおくもせんとてお野を
 うそくらひのふかりとくれは雲
 いとしうあつてもひろはゆうて
 おもむるにふくといとおく
 くそおーすゝんぞひうく
 まうひてふくのこころをそと
 こしらり畧けおかくお野のなち
 よとれり仍ちろし又源氏をさ
 夕方のそふうひのをきお野のこ
 わぬてえしと

伊
哲
高
聖

○とくたのふ 音のやうことんもそ
ふりり 雪ふねことり 時鳥松

尾張音聞

○とていさいていさ

丈木

おとていさいていさおとていさおとていさ

上張 音代

○とていさいていさ

丈木

おとていさいていさおとていさおとていさ

近に音高

○とていさいていさ

後子

おとていさいていさおとていさおとていさ

内小野

○とていさいていさ

おとていさいていさおとていさおとていさ

名高

おとていさいていさおとていさおとていさ

佐佐 映花

○とていさいていさ 月宮よめ名高

保 月の花時鳥歌

友

我ががさあけり月宮映花よ月宮

後人

けいけいけいけいけいけいけいけいけい

けいけいけいけいけいけいけいけいけい

知得 佐佐

○とていさいていさ

百七

おとていさいていさおとていさおとていさ

人

漢語 破歌

○とていさいていさ 月が宮のよめ

名高

おとていさいていさおとていさおとていさ

おとていさ

○とていさいていさ 月宮のよめ

おとていさ 雪 旅 其の煙木

月お豆

○とていさいていさ

百七

おとていさいていさおとていさおとていさ

相模 永平可鶏

○とていさいていさ

近々整ふ

○うらひのこ 天竺のふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに
お、一のやうにふしきくしき
よきものか

度良 不忘

○うらひのこ 一の度

本

うらひのこ 天竺のふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

本

る 眞 ぼ乃

○うらひのこ

百二

人

たのしみのおやうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

紀伊 和原

○うらひのこ

本

うらひのこ 天竺のふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

蔵 重家

○うらひのこ

麓芝川 天竺のふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

本

うらひのこ 天竺のふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

本

日 林

○うらひのこ ちやうどおのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

おのうにふしきくしき
ひづりの泣くつゝのやうに

やんやう 町鳥鹿お茶ねえ
結核のま

日 橙

○うららの山 川里とまに渡るはし

又木

こわい山にまわるとくまの木の山を渡る

り所

白金置

○うららの山 一の山やうきん

花 若のむらうきんくほの山

日 鹿

○うせいの山 ちやうせいの山

ちやうせいの山 ちやうせいの山

ちやうせいの山 ちやうせいの山

こさうの山

左今

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

くまをれ

日 鏡

○うららの山 ちやうせいの山

大ねま日

○うららの山 ちやうせいの山

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

日 葛城

○うららの山 ちやうせいの山

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

おきくまをれおきくまをれおきくまをれ

珍古

長

うらわもどきふとあり

五

五

のうしろに

June

田川 榮

書

書

書

外
卷

外
卷

人丸

人丸

百

百

陸人子書

陸人子書

天

天

字之就

五

五

卷之九

種
石

種
石

種
石

種
石

伊勢神宮

秋心や休閑のまじりて守の事又あはれ候也

○くんの山一野 （主を汗の） 墨日代

ふふふ

行藏

相摸錄倉

○うゑうゑ山 花 町鳥 三三三三三

三月一日

武
聖
蠅
0

○くでのふ
五枚

上德
限山

ひづりの山

懷才

永為之念也

書陳應

○
く
は
う

鹿とあり 野浦 浮崎 沐宮

由仁鏡山

○ふくしゅうの
鏡よもてらるる

之世を脱し又ハ方のきあふうし

いり
橋
呼子島
うね
郭么

白樂玉搔松玉久一窠山

鳥の体積の割合

左

張山のまゝりてそりひまわらふやうに
まゐる

けふわふとかなふとわう

○月 林 金

久

三京よりつむみおたりたもろひ林金の

○月林山

名

その外とて神の本意と其の正しき

阿多田より終る人々をきく

○うーどー

るる

うーと雲の裏より人木方ふの風後

日計そ
○うーもーうーのこ 桜、お茶花

あか可也

○うーやのこ ぶあれのこーとつりと
く 鹿ねお野

日電門

○うーゆーのこ ひささ お茶

ちね

都の西よりくすくすの煙煙とぬあふ

あか 鎌山

○うーくーのこ

るる

きふの後がのまをそ原よりしすくとる

野の青心

○うーのこ

るる

うれおのの柳のわしとまきしうー(後を人

おれ 吉野

○うーのこ けいけいのこ 麓より中亭

下亭とてわり合々三吉野と云

芳野は花のうーづーさんし又

わーうれのうー野といふかうと

うけくち枕細くのうーけいけい

野といふかうとくちとぬ流わりと

やへ花実とのけいけい又ふねのん

よめくちかかー 梅揺こけいけい

うーこけい ひぐりー ねん玉ねえ

根藤とくちとくちの下草若鶴若

神幸 峯の花を お茶の店こけいけい

細谷川 山井 若のねえ こけいけい

あなうとくちけい ぶあきのれいひね

るのうーくちけい ぶあきのれいひね

いさうー けいけいのこ けいけいのこ

うーの嵩 けいけいの奥こけいけい

こゝろの橋きし雪風とるるまの
なぐさとの下なるるるまの
おのく山房 富川 富川の
には出 望月 悠 田

夢

陸人不知

去歲より今年よりけききりなり

支

日
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

卷之四

[illegible]

同

真平山遊記 月日 雲海 月日

四

まうはふ宮様とてを言ふ、なわ落と

三

同

日
 まうれどのおきとるれあまのそとを
 法人不

使人不知

三

世より今より長風より此の風の如く

四

四

唐文公此山新志云唐文公此山新志云

...

後

後撰
我常と抄うけりて又入りて

香

10

我常欲作此書久矣

七

いふ、うの、や、と、わ、る、ち、ぢ

一とくも諸之於川置ふ後

子ハ世の如し

月余良

○ふのふ

五十

人丸

梓弓の状を記しにうろとてきやう

泉樓山

○
ふ
し

卷六

かみくしんはるかにうる様ふさふさく

近江
横田

Original

山城

○
と
山
も
雄
子
蟬
核
坂
松
の
あ

大木
主田

○
之
山
の
ま
ま
に
し
て
お
く

のーうとほちるハ立の字だん

新の字は又新の字は唐
ちもわり又をり、
とてり此は密勅よまへり
いふんとそ是れ白紙と云ふなり
ぬといふ人あは凡そ
まゐつてと果す真可危し
る故に望人のこころ
わりのとてり此は望人の主
田のことと云ふなり
かうくさうの名もけ
おもむき人の心
古傳よむなり
ありしときも童子とて農まや
いひてよしなり
いふとてり
すは農丈の国のこと

て拙著と其後ハ童子ノ心故と
ひて小社とナリて天子御座り
し所とナリてとん

鶯 柳 子鳥 時鳥

さくくも 厂 崇は麓は 夕は牧 日 鹿 ね

東橋 松のびくま青浦らゆり
あふりかふくしのかいこ

川 瀬川の雲日

琴

今
いふと望みゆふ鳥う夜衣之田代のふりりて
よしく不ぬ

凡此冲作成立田字字や、日字勢の如く

かきふとれろ方解しに川の堅

31

○旧高急
うほくしといふ
きさくまふり

又的ももてりてくらなく
ちいさうもつり又交鳴のー

丈木

星の何ぞを存の方にて珠城のふりてはなり
時休 玉頂

〇いぬさう山 いぬさうりりいぬさ
いつり 熟とさうい

遠にう呼

〇いぬさう山 花燈鹿お米 鷺や山
まゆりの候 夕さうれてけし

ふりり

丈木

大蛇

いぬさう山 花燈鹿お米 鷺や山
まゆりの候 夕さうれてけし

指撥 主野

さうさういぬさう山

大蛇 玉頂

〇いぬのよこ山 鷺さうり

近に鷹尾

〇いぬのよこ山

さうさういぬのよこ山
お花 鹿の指針

〇いぬのよこ山

さうさういぬのよこ山

柳 鶴 おつぎさ

〇いぬのよこ山

〇いぬのよこ山

丈木

春後

さうさういぬのよこ山
お花 鹿の指針

〇いぬのよこ山

丈木

春後

さうさういぬのよこ山
お花 鹿の指針

〇いぬのよこ山

さうさういぬのよこ山
お花 鹿の指針

〇いぬのよこ山

〇いぬのよこ山

やざい

〇いぬのよこ山

〇いぬのよこ山

歌集

動りぬきうらむおのころのうらむ

後成

佐波 とう井

○うらぬ乃山

名考

衣部四ノナ

そのはなをうらむはなはなをうらむ

佐興多の志根

歌集

西行

うらむうらむのうらむはなをうらむ

能登き淵

○うらうら山

丈木

さつき

猶人のまむりたる国のうらむはなをうらむ

磯中立山

○うらうら山

万十七

大付歌

まふふはなをうらむはなをうらむ

母成き倉倫中有日名

○うらうら山

名考

ふぶ

うらむはなをうらむはなをうらむ

名考

○うらうら山 郭公山田

日 とう井

○うらうら山

む時鳥

備中さか

○うらうら山

うらむはなをうらむはなをうらむ

一鹿お茶鐘

日絶著す

○うらうら山

うらむはなをうらむはなをうらむ

備中さか

○うらうら山

海花

み仲

うらむはなをうらむはなをうらむ

日 とう井

○うらうら山

能登き淵

○うらうら山

山城馬嘯

琴

○ 和 和 山

卷五

傳
子
品

近江
栢原

佳成

○
ひ
さ
く
と
山

伊勢 浮城
○うさぎのいのち

えき
おしほの浦凡そうんはよきとて浮城が

河 浮城
○うさぎのいのち 振り振るをうさぎのいのち

おしほの浦 凡そうんはよきとて
おしほの浦 凡そうんはよきとて
おしほの浦 凡そうんはよきとて

おしほの浦 凡そうんはよきとて

おしほの浦 凡そうんはよきとて
おしほの浦 凡そうんはよきとて
おしほの浦 凡そうんはよきとて

おしほの浦 凡そうんはよきとて

おしほの浦 凡そうんはよきとて

おしほの浦 凡そうんはよきとて

おしほの浦 凡そうんはよきとて

おしほの浦 凡そうんはよきとて

おしほの浦 凡そうんはよきとて

おしほの浦 凡そうんはよきとて

おしほの浦 凡そうんはよきとて

おしほの浦 凡そうんはよきとて

おしほの浦 凡そうんはよきとて

おしほの浦 凡そうんはよきとて

○おなご ーのいーの中ーの王

ふさしきり 桶のうん果

伊がえ 升磧

○おなごのい

お後

な令

流さる洞よりとまきみとたのいさる葉

お枝 後微

○のらとふのい 友さるる町事と

ー 旅のさる葉 お枝のーと

ふさしきり

能登 能登嶋

○のといふい

万十

入付薬

とまきみそ 舟まきさるるいさるこれさる

これいさるーちーの葉代わいそ

大内

○おなごらふ 大やうき禁中旅さる

百葉のーさる竹のーさるさる

花時鳥ねるる 松山ちゆき

木

後成

赤木 赤木大内とて松をいさるさるさる

木

夜重川ナト

さるさるの松のいさる赤木大内とてさるさるさる

月 男

○おなごらふ 旅のさるさるーいさる

さるさるー 松とさるの夜さるさる

さるの返 所き 後川 後合 所き

天川

月 太系 當國有雲今一はい太系や中港と流り

○おなごらふ 鹿 鹿さるさる

さる栗木わけ 里 里のい

川 小野 後合 勝清水 月 八束 日

月 腫

○おなごらふ

木

雄さる勝のいさるさるさるさるさるさる

○おなごらふ

大

Handwritten musical notation on a staff, with the label "第十卷" (Volume 10) written vertically on the left.

Handwritten musical notation on a staff, with the label "第九卷" (Volume 9) written vertically on the left.

Handwritten musical notation on a staff, with the label "第八卷" (Volume 8) written vertically on the left.

Handwritten musical notation on a staff, with the label "第七卷" (Volume 7) written vertically on the left.

Handwritten musical notation on a staff, with the label "第六卷" (Volume 6) written vertically on the left.

Handwritten musical notation on a staff, with the label "第五卷" (Volume 5) written vertically on the left.

Handwritten musical notation on a staff, with the label "第四卷" (Volume 4) written vertically on the left.

Handwritten musical notation on a staff, with the label "第三卷" (Volume 3) written vertically on the left.

Handwritten musical notation on a staff, with the label "第二卷" (Volume 2) written vertically on the left.

Handwritten musical notation on a staff, with the label "第一卷" (Volume 1) written vertically on the left.

The [unclear]

544

16. 12. 1895

香華淨瓶

五八

此字雖在古人亦難於辨別

○ 〰 〰 〰 〰

[illegible]

丁巳年 寫梅一枝 畫松

小松原 玉璫亭 興成 吸盤亭

卷之四

下野 黒髮備中有同名

五七

22. 10. 1940 - 1. 11. 1940 - 1. 12. 1940 - 1. 1. 1941

陸奧 栗泊

○不取之 雜費 松葉

丹後 金崎

Wine - Duck 5-30

美 來仇

0241-11-1

張大猷

1890-1891

卷之五

Omnia

誠 科

Old to Wood - But the name

張

兼備

此乃一書之序也

卷八

陳子龍

卷之四

off my feet

大夫為

२५२०

五、

人托

1845-1846-1847-1848-1849-1850-1851-1852-1853-1854-1855-1856-1857-1858-1859-1860-1861-1862-1863-1864-1865-1866-1867-1868-1869-1870-1871-1872-1873-1874-1875-1876-1877-1878-1879-1880-1881-1882-1883-1884-1885-1886-1887-1888-1889-1890-1891-1892-1893-1894-1895-1896-1897-1898-1899-1900-1901-1902-1903-1904-1905-1906-1907-1908-1909-1910-1911-1912-1913-1914-1915-1916-1917-1918-1919-1920-1921-1922-1923-1924-1925-1926-1927-1928-1929-1930-1931-1932-1933-1934-1935-1936-1937-1938-1939-1940-1941-1942-1943-1944-1945-1946-1947-1948-1949-1950-1951-1952-1953-1954-1955-1956-1957-1958-1959-1960-1961-1962-1963-1964-1965-1966-1967-1968-1969-1970-1971-1972-1973-1974-1975-1976-1977-1978-1979-1980-1981-1982-1983-1984-1985-1986-1987-1988-1989-1990-1991-1992-1993-1994-1995-1996-1997-1998-1999-2000-2001-2002-2003-2004-2005-2006-2007-2008-2009-2010-2011-2012-2013-2014-2015-2016-2017-2018-2019-2020-2021-2022-2023-2024-2025-2026-2027-2028-2029-2030-2031-2032-2033-2034-2035-2036-2037-2038-2039-2040-2041-2042-2043-2044-2045-2046-2047-2048-2049-2050-2051-2052-2053-2054-2055-2056-2057-2058-2059-2060-2061-2062-2063-2064-2065-2066-2067-2068-2069-2070-2071-2072-2073-2074-2075-2076-2077-2078-2079-2080-2081-2082-2083-2084-2085-2086-2087-2088-2089-2090-2091-2092-2093-2094-2095-2096-2097-2098-2099-2100-2101-2102-2103-2104-2105-2106-2107-2108-2109-2110-2111-2112-2113-2114-2115-2116-2117-2118-2119-2120-2121-2122-2123-2124-2125-2126-2127-2128-2129-2130-2131-2132-2133-2134-2135-2136-2137-2138-2139-2140-2141-2142-2143-2144-2145-2146-2147-2148-2149-2150-2151-2152-2153-2154-2155-2156-2157-2158-2159-2160-2161-2162-2163-2164-2165-2166-2167-2168-2169-2170-2171-2172-2173-2174-2175-2176-2177-2178-2179-2180-2181-2182-2183-2184-2185-2186-2187-2188-2189-2190-2191-2192-2193-2194-2195-2196-2197-2198-2199-2200-2201-2202-2203-2204-2205-2206-2207-2208-2209-2210-2211-2212-2213-2214-2215-2216-2217-2218-2219-2220-2221-2222-2223-2224-2225-2226-2227-2228-2229-2230-2231-2232-2233-2234-2235-2236-2237-2238-2239-2240-2241-2242-2243-2244-2245-2246-2247-2248-2249-2250-2251-2252-2253-2254-2255-2256-2257-2258-2259-2260-2261-2262-2263-2264-2265-2266-2267-2268-2269-2270-2271-2272-2273-2274-2275-2276-2277-2278-2279-2280-2281-2282-2283-2284-2285-2286-2287-2288-2289-2290-2291-2292-2293-2294-2295-2296-2297-2298-2299-2300-2301-2302-2303-2304-2305-2306-2307-2308-2309-2310-2311-2312-2313-2314-2315-2316-2317-2318-2319-2320-2321-2322-2323-2324-2325-2326-2327-2328-2329-2330-2331-2332-2333-2334-2335-2336-2337-2338-2339-2340-2341-2342-2343-2344-2345-2346-2347-2348-2349-2350-2351-2352-2353-2354-2355-2356-2357-2358-2359-2360-2361-2362-2363-2364-2365-2366-2367-2368-2369-2370-2371-2372-2373-2374-2375-2376-2377-2378-2379-2380-2381-2382-2383-2384-2385-2386-2387-2388-2389-2390-2391-2392-2393-2394-2395-2396-2397-2398-2399-2400-2401-2402-2403-2404-2405-2406-2407-2408-2409-2410-2411-2412-2413-2414-2415-2416-2417-2418-2419-2420-2421-2422-2423-2424-2425-2426-2427-2428-2429-2430-2431-2432-2433-2434-2435-2436-2437-2438-2439-2440-2441-2442-2443-2444-2445-2446-2447-2448-2449-2450-2451-2452-2453-2454-2455-2456-2457-2458-2459-2460-2461-2462-2463-2464-2465-2466-2467-2468-2469-2470-2471-2472-2473-2474-2475-2476-2477-2478-2479-2480-2481-2482-2483-2484-2485-2486-2487-2488-2489-2490-2491-2492-2493-2494-2495-2496-2497-2498-2499-2500-2501-2502-2503-2504-2505-2506-2507-2508-2509-2510-2511-2512-2513-2514-2515-2516-2517-2518-2519-2520-2521-2522-2523-2524-2525-2526-2527-2528-2529-2530-2531-2532-2533-2534-2535-2536-2537-2538-2539-2540-2541-2542-2543-2544-2545-2546-2547-2548-2549-2550-2551-2552-2553-2554-2555-2556-2557-2558-2559-2560-2561-2562-2563-2564-2565-2566-2567-2568-2569-2570-2571-2572-2573-2574-2575-2576-2577-2578-2579-2580-2581-2582-2583-2584-2585-2586-2587-2588-2589-2590-2591-2592-2593-2594-2595-2596-2597-2598-2599-2600-2601-2602-2603-2604-2605-2606-2607-2608-2609-2610-2611-2612-2613-2614-2615-2616-2617-2618-2619-2620-2621-2622-2623-2624-2625-2626-2627-2628-2629-2630-2631-2632-2633-2634-2635-2636-2637-2638-2639-2640-2641-2642-2643-2644-2645-2646-2647-2648-2649-2650-2651-2652-2653-2654-2655-2656-2657-2658-2659-2660-2661-2662-2663

相模重

わうの義一と云ふは

子鳥時鳥

○やう

五

万二
 姓うぢやあもこゝろをきつゝ全のこゝろ
 人
 大和

伊豫矢野井

○ヤのこゝろ
のぬい—あひら

鹿ノ草

藏拙

○満ちのとし
ひまー
かたき

馬平溪

日
招
毛

○海河のお山ちやうとと流ち

あふ案件佐傍社並金るす

朱子語類
論語精義

月
祛
裾

口海

莊集

西行

河合栂の裾山々々松久に逢ふん

同
去
向

○海老山 とうふ羊乳の味

とつちをりきふ殊賊害の令

居く世當日代當ふ衆行のそを云なり

探
呼子馬
河
之
所
紅
紫
柏
采

松原 其向の松原松原 松原 其向の松原

采
水

又打下總紀序有曰

○徳川の山
山鳥と云ふ

新刊

整ふ人々山崎の事より有る人々

抄付待兼

○酒らぐ糸山 傍々よりそふあり

子多 郭久 鹿 家の推采 山 川

下
待乳

○海山 聖武天皇

基

侍乳山々入れて座傍の角田師重と狹く膝

○はゆこの山
下河内 檀山

引れて安んずるを安んずるまに檀の山又洗
毎中 松山 溪は有目

○は川山

十のりれをばりし松山の檀とていふに接る由
出元

○はさねの山

時あるまはれぬさうのりあるをばりて
隆竹

○は川ぐうの山

村あるまはれりまはれに松の目ありに松山
隆竹

○は川ら山
紀伊 侍乳

葛原 松山

○は川山
時鳥 鹿

○は川ら山
肥前 松山

松浦山をくれふ松の里は、とて松山
松山 布當

○は川山

ふいふ松山をくれふ松の里は、とて松山
松山 布當

○は川ら山
日 松山

○は川ら山
日 松山

○は川ら山
日 松山

野 松山の里 日 田

○は川ら山

松山をくれふ松の里は、とて松山
松山 布當

の山 多幸とよこみせてい

そのくみーちとばちちり 採卵

[illegible]

野
常
子
京
田
源
社
橋

都日
石中
川

後飛

後正遍昭

至少品可標也之んれと知合され
 うれがふふ書くところり

日二越中有日么

○あつて山にのり
お茶をとり

百七

卷之六

紀伊小松崎ありと葛城の二山中も妹は能

伊 哲 蘇 浮

○妙ちくの山
山
浮雲
五

日
一見

○妙子の山

今集

源記房

まうとえのばあるうりなれぬ にる屋 えんぬの月

考

二打或丹收尾弦

○
山
王
々
々
々

ひさかぢのうしろ

又之強さによりとらる強さ

02

廿二日

鳥とりとりとり
お栗拾獲

获之鸟里

張所 爲士

一の石一のふね一の舟高

○^の_ののふ
い^の_ののふ

不二不盡國土なりとあり不二三國

多敷のくも不尽ハ高し不スル

富士八幡ありて神、骨て煙重なり

考に「ありひ」秦の金銀の事

仙菜と云ふ事歟と云ふ

海へ奉出せし事録して西十六日午の落

萊山とく撫とく郭とく公とく如とく萊とく月とく智とく

雪
四阿とらんあり六月十五日
よきこと其後ありんえん
雲
二きうりう

煙 ちりきりありて煙のふり
ふりふりありて煙のふり

四 日 中 間 日

○ *Handwritten musical notation*

知 道

知 道

Handwritten musical notation

○ *Handwritten musical notation*

知 道

知 道

Handwritten musical notation

知 道 知 道

○ *Handwritten musical notation*

知 道 知 道

○ *Handwritten musical notation*

Handwritten musical notation

知 道 知 道

○ *Handwritten musical notation*

Handwritten musical notation

知 道 知 道

○ *Handwritten musical notation*

知 道

Handwritten musical notation

知 道 知 道

○ *Handwritten musical notation*

知 道

Handwritten musical notation

知 道 知 道

○ *Handwritten musical notation*

知 道

Handwritten musical notation

知 道 知 道

○ *Handwritten musical notation*

知 道

Handwritten musical notation

知 道 知 道

○ *Handwritten musical notation*

知 道

Handwritten musical notation

知 道 知 道

○ *Handwritten musical notation*

Handwritten musical notation

Handwritten musical notation

Handwritten musical notation

Handwritten musical notation

Handwritten musical notation

送人

○わごごう

系とこの系をさす

五經

えい

あつたてのうゝお折をうゝうゝお折の屋

○あつと山

まをのふねとみり

わら

要するに、
この本は、

○わづきの山

多門之強

健

冬れはもとど此時身有極のふりあるを

○あきひら

郭果之在在

字法

○あまの山一鹿堂

秋の堂
鳥の聲

○たれ 五番 海のく山 五のふも 久この一も

うゝて天の字入時うゝふせとて

ひかり天の字をてんくうと云ふ

子時ハぐふと四つてむい文字は

まゝなり天徳山天照太神天皇三十九年ノ
乙未ノイハレニ

天壽麓山 り何れいふとくてもこの あり来山 月

香臭ハナノミと香久ハナノミのう

と天照大神志すはこりせりふ時八咫

万种此方并上抄しめて并承

[illegible]

宮とて所統之室の誼實ありしに

馬鹿の筆村

游雲雲時致之
并代志草

うれなまのあまのう

何所か

○あまのう

文木

市原元

うれなまのあまのう

細見

○あまのう

二石

市原王

うれなまのあまのう

日好明

○あまのう

老河

○あまのう

櫻正柄

○あまのう

板丹本玉小菱

うれなまのあまのう

うれなまのあまのう

うれなまのあまのう

不二の好し

日

○あまのう

うれなまのあまのう

日

○あまのう

うれなまのあまのう

日

○あまのう

赤集

西行

うれなまのあまのう

日

○あまのう

万十

なま

うれなまのあまのう

光隆

○あまのう

百十八

なま

うれなまのあまのう

うれなまのあまのう

○あきつゝいふいふきびとわいふ

りりいふいふの別とあひひわいふ

はのまことひやかふふいふいふ

鹿鹿峯に松村松のふふいふいふ

清水あふふいふいふいふいふ

ひやのれふのふふいふいふいふ

あつてゆふとあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

○あきつゝいふいふきびとわいふ

りりいふいふの別とあひひわいふ

はのまことひやかふふいふいふ

鹿鹿峯に松村松のふふいふいふ

清水あふふいふいふいふいふ

ひやのれふのふふいふいふいふ

あつてゆふとあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

日阿利木
○わりと山家の松あつた

○あへの山

五十六

舟王

眉のともなふあはれを 檀丹白紙に

荒乃釣金或土佐
○わさく山
萬年鳥松

抄五

天智天皇

物事やあるのなほこれ名のとてつねに

○わさ山

月
芳
城

五十二

作老不詳

わきまをうてのちひふくむ妹

對う浅茅
○あさざら山
鹿あさざら

歲時

○さぐの山　む　伊香一の安

反撲

とるを以て移り井川の千代のちち流るる

○さざさう山 白鳥ゆふひきのう

山崎のきりぎりす

白牡丹心松枝折

○さぐのふ

月相樂

方乙長

高橋

おころのほろろつて城のさうなるを

大和佐保
○さほらゝのぶ
榊柳さう呼ぶ

夕む時鳥ノ鹿お采松うれ
 へいふあう 凡そ供えん

左

友朋

日

志之不忘

松方公之へてち抄本との板の葉を送る

佐保山の松の葉をわきとあさへてとて野合乳

あふふふふ

日佐記
〇さ
り
り

月佐記

源佐伯
○さき山 弁ひさうり

四十五
○さき山 ちんちんも月の比ふ

さき山 弁ひさうり
ちんちんも月の比ふ

もは佐中

○さき山 ちんちんも月の比ふ

さき山 ちんちんも月の比ふ

さき山 ちんちんも月の比ふ

さき山 ちんちんも月の比ふ

さき山 ちんちんも月の比ふ

さき山 ちんちんも月の比ふ

さき山 ちんちんも月の比ふ

武蔵狭山
○さき山 ちんちんも月の比ふ

さき山 ちんちんも月の比ふ

さき山 ちんちんも月の比ふ

源佐伯
○さき山 ちんちんも月の比ふ

紫嶽

日細名 丹波有日名

○さき山 ちんちんも月の比ふ

ま水

さき山 ちんちんも月の比ふ

日細名 丹波有日名

○さき山 ちんちんも月の比ふ

ま水

さき山 ちんちんも月の比ふ

信濃更級

○さき山 ちんちんも月の比ふ

竹里 ちんちんも月の比ふ

後佐金形

○さき山 ちんちんも月の比ふ

ま水

さき山 ちんちんも月の比ふ

誠貴殿

○さき山 ちんちんも月の比ふ

奥 川 三浦川の宮

すまゐるこゝは奥の宮にあらはれぬ

日清水 ○こゝろの山 勝寺

え真

日、衣 ○こゝろの山 けし 鹿松 まゐる

大和衆 ○こゝろの山 ところの半ともした

いへとも ちし馬川

十市里

日服櫛

○こゝろの山 ところのふくろ衣

迎に来場

○こゝろの山

奥 衆

○こゝろの山

後成

佐中 佐中

○こゝろの山 ところの馬橋 奥代

時鳥 奥 奥

川

新 切目

○こゝろの山

甲斐

○ゆめ山

新

丹波 保良
○いー山

巨房

ゆーの禁のたの夜よまき人よ世にぞとて

日 抄布
○ゆーの山

日

万代とちいひやういふ言指うふすのいねね

荒ち五津間

○ゆーの山 せー鹿お 熊屋

そは木神

○ゆーの山 ーのふと又とふふのー

鈴鈴とーうーうーうー 揚屋を

若うのむ ぼくは 辰す川 ちやう

○城

○いーどろ ぶーちーとー

ーの ぶきさう

日 抄布

○いーの山 ちやうとーの野

そは

ちやう

いーの山 ちやうとーの野

大和 三條

○いーの山 ーのねーのーのー

ふかーのまーのーの林とー

は酒

むすさうのこくしけとー

ーの板板とーの門 ちやうとー

かーうり三條の国 ちやうとー

わり男あーとーとーとーとー

とーとーとーとーとーとー

とーとーとーとーとーとー

とーとーとーとーとーとー

とーとーとーとーとーとー

とーとーとーとーとーとー

とーとーとーとーとーとー

とーとーとーとーとーとー

とーとーとーとーとーとー

とーとーとーとーとーとー

とーとーとーとーとーとー

とーとーとーとーとーとー

とーとーとーとーとーとー

お集 若泥木 主母

日れち

〇くけふこころけふこころ
鶯様 若泥木よりくけはぬさね

日ニニ

〇くけふこころのやとくけふこころのや味酒の
― 林葉の― 林の― 林の―
ひろなとくけふこころ 林葉のやと味酒の
昔の― 昔の― 昔の―
松麓の 秋松林 宮に玉垣とくけふこころ子
く水谷のくけふこころ 木々 林葉 岸 岸

春

人死

秋月お集 若泥木よりくけはぬさね

日

林葉のくけふこころのやとくけふこころのや味酒の
くけふこころのやとくけふこころのや味酒の

日耳梨

〇くけふこころのやとくけふこころのや味酒の

日ニニ

日神姫

〇くけふこころのやとくけふこころのや味酒の
くけふこころのやとくけふこころのや味酒の
月影のくけふこころのやとくけふこころのや味酒の
鹿のくけふこころのやとくけふこころのや味酒の
村島 一鹿 お集 村

日神姫

〇くけふこころのやとくけふこころのや味酒の
新日 系 若泥木の

阿内 嬰兒

〇くけふこころのやとくけふこころのや味酒の

方ふ

くけふこころのやとくけふこころのや味酒の

日神姫

系

花屋 今

くけふこころのやとくけふこころのや味酒の

日神姫

〇くけふこころのやとくけふこころのや味酒の

信忠御射

Omni

玄玄經

一、（一） 日本に於ける政治の歴史

下
錦
之
玩

○この山下群のしるしは

陸奧陸奧

○ちのち

五十八

とあるは此の事なりと云ふは其の意なり

卷之三

○
ヤ
ヅ
ル

名

舟より岩原の渡を去るや晴ふとて月夜

紙中見李序

Omaha

丈木

とてふてまゝの御座るやうに云へ

丹波水尾

○のお山のお山

久壽

うちつゝい水のかよのなむとまぢぢへていぢぢとよ

因懷三角

Omaha

丈本

ちと記とてまゝに世教へをて記す

乙見所滑

○三ノ山

四

後を以てては我が法流の正統を

紀傳三編

○
三
の
山

西集

わさるやうに梅雪をわさるうと云

大和山原仔与

○ 慶山

五十九

雪字の五つはつなぐちを

葉榮山

○五ノ

千

入新ののれの逢ふまゝて空ふつたの春

傷寒論

○まぶく山

熊庭漢

○ 志所ハシ

鸞
鹿
象
義
地

○五部山莊のまゝのうゝゝゝのまゝと

くちしり
内書

九度滿山

○きぐのふ

時多摩

森 田 芳 日

月白雲

○まゝも山も
梅さう

近江地

○青川山

律

とらふへ

桑

凡ては子孫に傳へるべきものなり

廿九

日語考索

○あゝさ

一のつとふ一の根のふ
一の根のねふと後り

櫻 ちりさの松
と栞とも

郭之鹿一藥松接木

徳和寺

月白月

○ちんちん

樹
乃
心
鹿
梁
と

知

月志笑

のちのこ

ちのふくのすけ

中折上より山々といふ白川の源の

とつちのほつてきこのちふ

そのうへをたしとて鍾乳の記を後

一糸のし付五上人お集道場の者云

のふくそとらんせふとす

りといふ花を八門の傍のふくま

法興寺のわろれ席ふも月の

まのこゝろを荒れゆかりとす

我其果ありぬの屢凡の終まふの山

人よりよく知られし人

その中、最善のものを三つから

一役の心とくは心のはらうとく

了六萬款合ふも云の程に由る

○ふみ山
中びろのまこの
うきと淡や田
通うきの

その守戒をいふまゝの修徳之う初を中

○ひしろこ
魁祐およひしろこの子

と目のとく、凡のきく、わらぬ
ゆあふとわつて、うひと、うらと
うらと、さて、そ、わ、入、と、わ、わ、
う、わ、う、わ、う、う、と、う、う、と
と、さて、う、月、朝、見、ふ、水、宮、の、口、と、ひ
ふ、さて、わ、と、う、う、う、金、持、螢、ま、ね
の、口、ふ、う、う、う、禁、の、系、の
下、木、谷、川、
う、う、う、ね、わ、う、の、う、

日日新

○ひげふ

月夜にさる夢のうらさるのうらさる

師於

○ひもとての山　　さきぬづのーと降り

日
中

ひじろふしひじろわし

大坂中 張りきり山いり 宇治 青木 定定

聖

ついでにのこ
すゝめり
をあらうとせり

五

金嶺島郭公紅紫梳采采木仙人

牛馬の糞をいすこ黒くぬふ松名^{一かた}は漬^ひ雪^ふ

夢

おんくやふとねら

伊洛之川

○
○
○
○
○

卷五

月々ひるひる酒をたぎやうとて甲子年

長

相摸
四句

○
〇
〇
〇
〇

近以百聞

日
志

琴

上野 抄聞

陸奥 心

紀伊石里

木

○ももぢの山

五十五

近江園山

177

○せのふ

五樂松

山陰
須臾

○
エ
ア
ウ
エ

伊勢
於鹿

André
St. Louis

ちりりらんとうふくろを中上

あふみぬれりし
時鳥とて

萬葉集
卷之八
下

日
月

東來

つとむのよし

あつちのちぢいさんおのいひで
とらふらんといふのいふらん
く奥長おれは家助ういふらん
ていとうらんわの略くむあやむ
馬丁鹿く

おれ

○いふらん

おれ

いふらんわのちぢいさんおのいひで

佐助

破中は襦袢

○いふらんわのちぢいさんおのいひで

日若山

○いふらんわのちぢいさんおのいひで

俵な若き

○いふらんわのちぢいさんおのいひで

おれ

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれ

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

おれは家助ういふらんわのちぢいさんおのいひで

近江五十師

○いづれの花 花 お美はゆと

お木

白木のたの指とふきていそ 此れとありて

美度或用佐

○いづれの花 花 お美はゆと

佐 佐

○いづれの花

佐 佐

お木

佐 佐

○いづれの花 花 お美はゆと

佐 佐

○いづれの花 花 お美はゆと

景地ふとのぬより

日向速日

○いづれの花

天孫降臨のぬと

佐 佐

うさぬまひのぬとまふる天の山孫の玉を

大木

○いづれの花 花 お美はゆと

お木

○いづれの花

佐 佐

うさぬまひのぬとまふる天の山孫の玉を

日向

○いづれの花 花 お美はゆと

日向

○いづれの花 花 お美はゆと

佐 佐

○いづれの花 花 お美はゆと

紫 至月の指ひくくいれふとあり

うさぬまひのぬとまふる天の山孫の玉を

お木

うさぬまひのぬとまふる天の山孫の玉を

佐 佐

○いづれの花 花 お美はゆと

佐 佐

○いづれの花 花 お美はゆと

道は横川

○いづれの花 花 お美はゆと

お木

五十八

○月
こす
うん

又木

くぬきの野や中へさか吹ふねふれし鹿の鳴

近

○さぐりこの旅 幸ねこのはより

み峰

○わこの旅 幸ねこのはより

月阿弥陀

○あさくさ旅の歌

懐中

みえくさくさ旅の歌 幸ねこのはより

太右青根

○あさくさ旅の歌 幸ねこのはより

よふありさくさ旅の歌 幸ねこのはより

村の村まきさくさ旅の歌 幸ねこのはより

さくさこの山川 幸ねこのはより

相模

○あさくさ旅の歌 幸ねこのはより

佐佐

○あさくさ旅の歌 幸ねこのはより

紙を

○あさくさ旅の歌 幸ねこのはより

はより

相模相模旅

○さくさ旅

近

○さくさ旅の歌 幸ねこのはより

紀伊旅

○さくさ旅の歌

さく

さくさ旅の歌 幸ねこのはより

さくさ旅

○さくさ旅の歌

お後松

さくさ旅の歌 幸ねこのはより

伊豆伊豆

○さくさ旅の歌

伊豆伊豆

○さくさ旅の歌

名考

ふきとふきの根をきても人の命を救ふ

甲斐 甲斐根

○うぐいす根 梨根 きのこの房と重

左今大分

うぐいす根をきても人の命を救ふ

うぐいす根をきても人の命を救ふ

けきとふきふきりてききふきの月

根をきても人の命を救ふ

九尾 節根

○つぐみ根 きのこの房と重

ききとふき根

○つぐみ根

五十に

つぐみ根をきても人の命を救ふ

記考

○かり乃き根 きのこの房と重

武蔵 武蔵根

○むぎ根

記考

○ゆづの根 きのこの房と重

記考

○うぐいす根 きのこの房と重

近に

○ひの根 きのこの房と重

ききとふき

○ひの根

記考

うぐいす根をきても人の命を救ふ

記考

○うぐいすの房

大和

○うぐいすの房

日 金部

○うぐいすの房

ききとふき

うぐいす根をきても人の命を救ふ

なほし流るるをのわづらひとて三春の味し
ふの川 渡るるの川 日づちを
うし流る

日向高千穂
○うづらやの寓し事

ほだ散書
○つづきの寓

大和痛足
○あつたの寓 糸糸のふしわり

玉聖
凡むふなれ時多とくし痛足のまじり
作原

○わさぬの寓 糸糸のふしわり

近江舟
○さぬの寓
乙女
甲のほふのまじりとも多し檀のまじり

乙女
○ゆづきの寓

乙女
わさぬのまじりとも多し檀のまじり
乙女

○ゆづきの寓 糸糸のふしわり

乙女
○うづらの寓 糸糸のふしわり

日

そのあつた 糸糸のふしわり

そのうづら 糸糸のふしわり

そのあつた 糸糸のふしわり

そのうづら 糸糸のふしわり

木 音法の上諸まんやう

〇城霞若

〇うんこの若 陸奥在日ふあうう

こころの若と傍り八雲ふうとこの

そまを懐しこい 當りこり

冬

あふふふの若とれは 照目ぬわしやう

そま

〇こころの若 まねのふいり

日 久米治

〇うあぢの若 孫神ういり

名寄

ううやうあれまの村衆とねは接お所

陸房

近にお松

〇こころが若

松

るんとお松うそれ松はあててむい文

老彦

日 橋

〇こころが若

末木

お松や橋よりあまううはこい

お松

〇ゆうの若 とつてび 雲

日 松

〇ひりつれ若

末木

お松とつれと月とて接あつてふ

末彦はる

丹波 平若

〇ひりつれ若

藤

あふふひは若水座清くもこい

匡房

松

末木

松木松木松木松木松木凡松川

ねとねと浦の松と松と松と

うう 若の松木松木松木

とや木川并のうとふあつて

六十一

のいふ通り
その通法

志
冊

ぬのね
ちやうど

ひるものともひる
こゝろのあつて

道以我立

こ
ワ
と
し
松

建之の時より齊とて松本

五ノ三ノ二ノ一ノ

孫

阿耨多羅三藐三菩提の仏を我々凡たう眞く

九十九家立松とて何事ぞ

亥時鳥鹿松系松系

月
志
見

○うろこのねもと 又蕨宮木川

日
朽
不

○にくらゐのね
くらゐのね
くらゐのね

と傍り又たさうぬゝも柄本と

云ふよりして、
鹿谷堀木

月
梓
松

○あづきの松 時鳥 宮本

月水尾

つゝおの松 榊杖様系宮本川丸

木
移
れ
山
浦
崎
多
多
り
り

月

○夢しきのね 幸ゆふふのゆより

夢
日

○ちとりのね 宮木さやと強り

坂

あづまの坂 月 ころころ 木 みる 月 と

のころ 江戸のばう ころころ

山城

○いろり坂
きんふきの坂より

○*Handwritten cursive* 教

○*Handwritten cursive* 教

○*Handwritten cursive*

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

○*Handwritten cursive* 福

山城

糸油の心より

佐佐木為所

○とてのゝ坂 東路の——佐渡

一うしつちんを 保嬰書

鳥の巣ぐとろ小篠夕日

大正十一年

和漢湯飯

○
14
vq

久壽

東海の四谷とくそと後六谷木流多、早川也

行相

○いゝとあひのは

五九

五九
のわへのほの藤よとぞる橘のむとぞんこし

洞

葵木

其の洞の秘伝を其の洞は洞のことて傳へ

とうめ洞 日 法 なる洞 洞の松風

こぎの伯い海翁いふやの翁

いしゆり 乙未日

近江横川

○
よ
う
め
洞

丈木

方家

うゑうゑの所の事業よりあつて

同

日
 今更洞と云ふは流をよめる所の故の
 日
 水

紀序

いとう野　　この奥は若の洞と湧る

史木

授儒正氣

入月の朝月をせうれれすの奥の若の

是

野のまやうにい

さへ山からとていひふのとう

日 景 ぞ じ る 景 の く と 称 日 いろ れ 景
日 ち り の 景 ぞ と い れ 景 日 いろ 景 の
あ ゐ

蔵 石 田

〇 い ら づ の 景 つ ド 丁 節 日 景 ぞ じ る 景 の く と 称 日 いろ れ 景

走 木

匡 房

城 の ま 田 の 景 の ま づ 一 い ら づ ち り の 景

陸 奥 繁 号

〇 い ら づ の 景 山 松 里 岡 日 景 ぞ じ る 景 の く と 称 日 いろ れ 景

奏

万 葉

と 一 の 景 の ま づ 一 い ら づ ち り の 景

紀 伊 志 代

〇 い ら づ の 景 直 松 野 日 景 ぞ じ る 景 の く と 称 日 いろ れ 景

杜 林

中 皇 令

五 一 景 ぞ じ る 景 の ま づ 一 い ら づ ち り の 景

〇 い ら づ の 景 景 時 景 日 景 ぞ じ る 景 の く と 称 日 いろ れ 景

山 藏 勝 号

〇 い ら づ の 景

教 教

基 俊

月 龍 号

〇 い ら づ の 景 藤 ぞ じ る 景 の ま づ 一 い ら づ ち り の 景

栗 若 秘 号

〇 い ら づ の 景 景 時 景 日 景 ぞ じ る 景 の く と 称 日 いろ れ 景

月 片 号

〇 い ら づ の 景 景 時 景 日 景 ぞ じ る 景 の く と 称 日 いろ れ 景

ち り 景 松 林 日 景 ぞ じ る 景 の ま づ 一 い ら づ ち り の 景

抄 六

万 葉 集

〇 い ら づ の 景 景 時 景 日 景 ぞ じ る 景 の く と 称 日 いろ れ 景

日 林 号

〇 い ら づ の 景 景 時 景 日 景 ぞ じ る 景 の く と 称 日 いろ れ 景

大 和 片 号

〇 い ら づ の 景 景 時 景 日 景 ぞ じ る 景 の く と 称 日 いろ れ 景

〇 い ら づ の 景 景 時 景 日 景 ぞ じ る 景 の く と 称 日 いろ れ 景

松 の 下 景 山 景 日 景 ぞ じ る 景 の ま づ 一 い ら づ ち り の 景

万 葉

中 皇 令

〇 い ら づ の 景 景 時 景 日 景 ぞ じ る 景 の く と 称 日 いろ れ 景

〇 瀬 号

〇 瀬 号

千五石

長きやたつねきぬのふしききつていふふしき

大和 奈良良志

○なぐしーの雲 極呼子野えふ雲

鹿野像ううやううう

阿内 彼傲

○なぐしーの雲 いふなりーと淡

て振わむ為 齡 招 棄 官

接津 名 歌

○なぐしーの雲 何うお雲

武蔵 向雲

○じうひの雲 菊お雲 寄 杉 木 松 木

玉 條

未 霜

本和猪養

○わうひの雲 こころのーしき

ふのーううううーううう

うう 鹿 抄 記

甘は 金 雲

木 木

歳 八 歳

○やーの雲 おのーううう

つとむ雲 橘 玉 條

甲斐 山 梨

○やふたーの雲 山梨のむ

わいのうーきふけ水のぬきふていふ

大和 真 雲

○はゆーの雲 萩 丁 ね 雲 木 ぬ

ち門 麻 利

方 云

○ふか雲 子 目 づ か ね 雲 木 ぬ

ーね 雲 木 ぬ 雲 木 ぬ

山 野

木和 整雲

〇あけぐみの雲

藤垣

くそのおの井ふきにうわせしの雲やのなる候

近々 浅井

〇あさなの雲

丈木

秋がくはかの雲のふきあけひやとらんちよの

丈木 佐志

〇さぐさの雲

万二

お目照さくは雲といひつゝおろく目や

近々 佐野

〇さぐさの雲

お隆とよりう

万二

お各のきこは雲といひつゝおろく目や

いあふふふふふふ

山城 衣笠

〇さぐさの雲

わか井とよりう

鹿 志松

〇さぐさの雲

〇さぐさの雲

〇さぐさの雲

〇さぐさの雲

さぐさの雲といひつゝおろく目や

高 葛うらやふ葉小藤系

〇さぐさの雲

〇さぐさの雲

〇さぐさの雲

〇さぐさの雲

丈木

さぐさの雲といひつゝおろく目や

〇さぐさの雲

〇さぐさの雲

お虫 鹿う葉とよりう

田 沼の雲 湊 雲のり

丈木

王系

さぐさの雲といひつゝおろく目や

さぐさの雲といひつゝおろく目や

さぐさの雲といひつゝおろく目や

大和藏書

○ 乃 乃 乃

松林
世子の木

霜の下を

何内忠云

○のうゑ

寫為庚山條草

佳奧信矣

○ふのふ

アムアビ対馬

一

壽山

孝子の杖日浦

原日里日

張何惠安片

○さしの上へ

路

全

あぢり
あぢり
あぢり
あぢり

歌々

多^もづ^づに^にづ^づも^もを^を圍^をら^らぬ^ぬづ^づ儚^儚づ^づ

ばぢきぢきととぢきぬの通ひぢき

ぢふみぢ
別ぢふる中る上

乃上乃極乃細乃小乃少乃

いぢつゝぢちぢらるゝぬぢ

代はぢあふらにせらうふ

なふらわらゆちきざや

とぢ
とろ
ら
対ふ我中
とろとら

ふらぢ冊
このらに候
むのち

雲のうら^は雲と^はひのひのひ

ぢうひるのすゝめ
おのゝやうに

ふのふち
江戸
夏のおる

ゆきひる 雪の下に みのをきて

る
世
る
る
あ
ぜ
あ
細
る
う

人の心
を縛る

あひだる 八雲のたむきの月ぢ

一の車とくく

どろのた　　其の志たてしむく

但馬

望月詔

以

月
十
細

下

どろの衆 徒合

三

主の心より

製

三ノ

ついで
この
字の
文の
なる
を

○みぞの中へ

二六よりその中より三冊をいそいで取り出し

或大不

五二

大正九年五月廿九日

笑

太水布衣

○ぬくの中へぬくのもこれかゝる

ふくく系 清水と水

日佐保

○こや路

新

耕書

届き所へい柳するはとさぬはふらぬもの

信は木多

○こや路 さきものか路

血をきく

○とがのちるーのほろ

木

あふ

我うはちかたをうたれむやわらぬの井

日

あふ の水

ちいさく人のけりやあふるわたりまはるる

日 分田

○でこの中へ

名

あふ

川はとでこの中へえれてあふる

月の50

開

菜

○美戸 美のとこも木 美路 美

のふさ 美のふさあふるうさ世の美

美のわ 垣田の園ふのやこの美天

の美さ 美の美 美の美 美の美

美の美 美の美 美の美 美の美

美の美 美の美 美の美 美の美

美の美 美の美 美の美 美の美

美の美 美の美 美の美 美の美

美の美 美の美 美の美 美の美

美の美 美の美 美の美 美の美

美の美 美の美 美の美 美の美

廣 美

○いこの美

美 美 美 美 美 美 美 美 美 美

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

日 曜 日

○いこの美 美 美 美 美 美 美 美 美 美

又本 勢やうきふくし *shōyōki fukushi* のまにけの

我中り奈美

○とあゝの言ふ *shōyōki fukushi* けり

武蔵 *shōyōki fukushi*

○とやうの言

又本 *shōyōki fukushi* のまにけの

陸奥 *shōyōki fukushi*

○とやの言 丁地

伊勢 *shōyōki fukushi*

○ういふ *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言

shōyōki fukushi

武蔵 *shōyōki fukushi*

○ういふ *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言

又本 *shōyōki fukushi* のまにけの

熱河 *shōyōki fukushi*

○ういふ *shōyōki fukushi* の言

shōyōki fukushi の言 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言

陸奥 *shōyōki fukushi*

○ういふ *shōyōki fukushi* の言 探 言 *shōyōki fukushi* の言

後撰

shōyōki fukushi の言 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言

出羽 *shōyōki fukushi*

○ひやくの言 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言

河内 *shōyōki fukushi*

○ういふ *shōyōki fukushi* の言

我 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言

伊勢 *shōyōki fukushi*

○ういふ *shōyōki fukushi* の言

又本

shōyōki fukushi の言 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言

○ういふ *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言

人 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言

ア *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言

板 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言 *shōyōki fukushi* の言

歳本

○ここの言 *shōyōki fukushi* の言

〇〇〇の冥山里川

ふいやうに其の明かりをいやふ

○
ふ
は
が
え

芳名に人となりありきのみ
 芳名に人となりありきのみ

陸保

陸奥衣

○ころもの冥保晒子窓

肥
子
人
實

○ろの雲

世とまゝの愛は、
別れを爲す時

有乳

○あがれ雲 雲 雨 人の心うさ

略々京漢合不二程日じや

らにあり

○血にあふさうの雲む柳絮松駒連

清乳
雲子水
之乳水
雲水
松樹

中付参 又ち林 世との店 室の

美のこころ美の所へ

夫人之

冬

金匱の要方十卷を記す。おのゝちか

名

高きてふもけうきんちりるふふ社記

31

こゝや時にもふく知れも逢坂の

くちてきんをいふる成に並の

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

竹坡全集

○あらの実

癸

茶のちや通ふをさうこりて今此の儀

庚申今注

○あひの雲 川山里を張り

長赤回

○あふみの雲 梨

最分於余或土佐

○あさりの雲　　あさりの雲

時
子
山
本
丸
五

○ *Handwritten cursive* 後回 諸兄
○ *Handwritten cursive* 此 國 諸 兄
○ *Handwritten cursive* 保 諸 兄 不 二 日 諸 兄 諸 兄

○ *Handwritten cursive* 紀 仔 紀 國
○ *Handwritten cursive* 進 具 目
○ *Handwritten cursive* 標 收
○ *Handwritten cursive* 肥 心 具 者 哉

○ *Handwritten cursive* 交 未
○ *Handwritten cursive* 廣 興 自 己
○ *Handwritten cursive* 光 後

○ *Handwritten cursive* 標 收
○ *Handwritten cursive* 標 收
○ *Handwritten cursive* 標 收
○ *Handwritten cursive* 標 收

○ *Handwritten cursive* 日 下 進
○ *Handwritten cursive* 日 下 進
○ *Handwritten cursive* 日 下 進

○ *Handwritten cursive* 標 收
○ *Handwritten cursive* 標 收
○ *Handwritten cursive* 標 收

○ *Handwritten cursive* 標 收
○ *Handwritten cursive* 標 收
○ *Handwritten cursive* 標 收

○ *Handwritten cursive* 標 收
○ *Handwritten cursive* 標 收
○ *Handwritten cursive* 標 收

今
あはれはよきまはしむるは
つれなきはなれり
つれなきはなれり

ほろ
○さくくはる さくくはるや 驛
まはれこのふいふ

木林

さくくはるの森 森のつるのつゆ
一の指一の木のつるのつるの
あ一のつるのつるのつるの
あ一のつるのつるのつるの
あ一のつるのつるのつるの

蔵

○いふくしの杜 杜の下あ

○いふくしの杜 もくればよきまはしむる

あはれはよきまはしむる

○いふくしの杜 杜のつるのつるのつるの

あはれはよきまはしむる

あはれはよきまはしむる

杜

○いふくしの杜 杜のつるのつるのつるの

あはれはよきまはしむる

あはれはよきまはしむる

あはれはよきまはしむる

あはれはよきまはしむる

日

○いふくしの杜 杜のつるのつるのつるの

杜

○いふくしの杜 杜のつるのつるのつるの

あはれはよきまはしむる

紀勢 惣代

○いーの松

後松

志代松のいーの松はすくすく生え

惠慶

○うーの松 呼子も お茶竹の下

トーのやー

日好東師

○うーの松

呼子

後松

志代松のいーの松はすくすく生え

惠慶

○うーの松

呼子も お茶竹の下

志代松のいーの松はすくすく生え

志代松のいーの松はすくすく生え

○うーの松

呼子

惠慶

後松

○うーの松

呼子も お茶竹の下

志代松のいーの松はすくすく生え

志代松のいーの松はすくすく生え

後松

志代松のいーの松はすくすく生え

○うーの松

呼子

惠慶

志代松のいーの松はすくすく生え

○うーの松

呼子

惠慶

里門

日好木

○うーの松

呼子も お茶竹の下

河内河田或近

○うーの松

呼子

杉林南伝

○うーの松

呼子

伊賀凡松

○うーの松

呼子

懷真語杜

0250#

大德、退步

1782-1783-1784-1785-1786-1787-1788-1789-1790-1791-1792-1793-1794-1795-1796-1797-1798-1799-1800-1801-1802-1803-1804-1805-1806-1807-1808-1809-1810-1811-1812-1813-1814-1815-1816-1817-1818-1819-1820-1821-1822-1823-1824-1825-1826-1827-1828-1829-1830-1831-1832-1833-1834-1835-1836-1837-1838-1839-1840-1841-1842-1843-1844-1845-1846-1847-1848-1849-1850-1851-1852-1853-1854-1855-1856-1857-1858-1859-1860-1861-1862-1863-1864-1865-1866-1867-1868-1869-1870-1871-1872-1873-1874-1875-1876-1877-1878-1879-1880-1881-1882-1883-1884-1885-1886-1887-1888-1889-1890-1891-1892-1893-1894-1895-1896-1897-1898-1899-1900-1901-1902-1903-1904-1905-1906-1907-1908-1909-1910-1911-1912-1913-1914-1915-1916-1917-1918-1919-1920-1921-1922-1923-1924-1925-1926-1927-1928-1929-1930-1931-1932-1933-1934-1935-1936-1937-1938-1939-1940-1941-1942-1943-1944-1945-1946-1947-1948-1949-1950-1951-1952-1953-1954-1955-1956-1957-1958-1959-1960-1961-1962-1963-1964-1965-1966-1967-1968-1969-1970-1971-1972-1973-1974-1975-1976-1977-1978-1979-1980-1981-1982-1983-1984-1985-1986-1987-1988-1989-1990-1991-1992-1993-1994-1995-1996-1997-1998-1999-2000-2001-2002-2003-2004-2005-2006-2007-2008-2009-2010-2011-2012-2013-2014-2015-2016-2017-2018-2019-2020-2021-2022-2023-2024-2025-2026-2027-2028-2029-2030-2031-2032-2033-2034-2035-2036-2037-2038-2039-2040-2041-2042-2043-2044-2045-2046-2047-2048-2049-2050-2051-2052-2053-2054-2055-2056-2057-2058-2059-2060-2061-2062-2063-2064-2065-2066-2067-2068-2069-2070-2071-2072-2073-2074-2075-2076-2077-2078-2079-2080-2081-2082-2083-2084-2085-2086-2087-2088-2089-2090-2091-2092-2093-2094-2095-2096-2097-2098-2099-2100-2101-2102-2103-2104-2105-2106-2107-2108-2109-2110-2111-2112-2113-2114-2115-2116-2117-2118-2119-2120-2121-2122-2123-2124-2125-2126-2127-2128-2129-2130-2131-2132-2133-2134-2135-2136-2137-2138-2139-2140-2141-2142-2143-2144-2145-2146-2147-2148-2149-2150-2151-2152-2153-2154-2155-2156-2157-2158-2159-2160-2161-2162-2163-2164-2165-2166-2167-2168-2169-2170-2171-2172-2173-2174-2175-2176-2177-2178-2179-2180-2181-2182-2183-2184-2185-2186-2187-2188-2189-2190-2191-2192-2193-2194-2195-2196-2197-2198-2199-2200-2201-2202-2203-2204-2205-2206-2207-2208-2209-2210-2211-2212-2213-2214-2215-2216-2217-2218-2219-2220-2221-2222-2223-2224-2225-2226-2227-2228-2229-2230-2231-2232-2233-2234-2235-2236-2237-2238-2239-2240-2241-2242-2243-2244-2245-2246-2247-2248-2249-2250-2251-2252-2253-2254-2255-2256-2257-2258-2259-2260-2261-2262-2263-2264-2265-2266-2267-2268-2269-2270-2271-2272-2273-2274-2275-2276-2277-2278-2279-2280-2281-2282-2283-2284-2285-2286-2287-2288-2289-2290-2291-2292-2293-2294-2295-2296-2297-2298-2299-2300-2301-2302-2303-2304-2305-2306-2307-2308-2309-2310-2311-2312-2313-2314-2315-2316-2317-2318-2319-2320-2321-2322-2323-2324-2325-2326-2327-2328-2329-2330-2331-2332-2333-2334-2335-2336-2337-2338-2339-2340-2341-2342-2343-2344-2345-2346-2347-2348-2349-2350-2351-2352-2353-2354-2355-2356-2357-2358-2359-2360-2361-2362-2363-2364-2365-2366-2367-2368-2369-2370-2371-2372-2373-2374-2375-2376-2377-2378-2379-2380-2381-2382-2383-2384-2385-2386-2387-2388-2389-2390-2391-2392-2393-2394-2395-2396-2397-2398-2399-2400-2401-2402-2403-2404-2405-2406-2407-2408-2409-2410-2411-2412-2413-2414-2415-2416-2417-2418-2419-2420-2421-2422-2423-2424-2425-2426-2427-2428-2429-2430-2431-2432-2433-2434-2435-2436-2437-2438-2439-2440-2441-2442-2443-2444-2445-2446-2447-2448-2449-2450-2451-2452-2453-2454-2455-2456-2457-2458-2459-2460-2461-2462-2463-2464-2465-2466-2467-2468-2469-2470-2471-2472-2473-2474-2475-2476-2477-2478-2479-2480-2481-2482-2483-2484-2485-2486-2487-2488-2489-2490-2491-2492-2493-2494-2495-2496-2497-2498-2499-2500-2501-2502-2503-2504-2505-2506-2507-2508-2509-2510-2511-2512-2513-2514-2515-2516-2517-2518-2519-2520-2521-2522-2523-2524-2525-2526-2527-2528-2529-2530-2531-2532-2533-2534-2535-2536-2537-2538-2539-2540-2541-2542-2543-2544-2545-2546-2547-2548-2549-2550-2551-2552-2553-2554-2555-2556-2557-2558-2559-2560-2561-2562-2563-2564-2565-2566-2567-2568-2569-2570-2571-2572-2573-2574-2575-2576-2577-2578-2579-2580-2581-2582-2583-2584-2585-2586-2587-2588-2589-2590-2591-2592-2593-2594-2595-2596-2597-2598-2599-2600

減去田

0-20th for 2nd 1st 2nd

指 踪

○ 松 松

戒私

十三年四月廿五日

李如圭

5644

22 (25) 1872

田立本

○^三○^二○^一○^本

源行順

Handwritten signature: *James M. Smith*

५००५

○ ~ 2.10.12

教範

John W. O'Hara

求 附 按

2000

停智 月次

○ 補 益 壯 陽 丸

何日波

2011/10/10

Handwritten: 506 - 1978

紅仔 吳保榮 恩德 官

○ 2000 年 10 月

大隅 奈毛木

[Handwritten signature]

一、求

Let us now see what the effect of the above is on the

田(字) 熟

うしろの松 又 墓木の松の字用木

for the same — the same

苗象三象志列經秋凡理木

越中鴉板

○うさぎの松

一

○本

۱۱۱

鳥居

○うひぐの松 ゆくらにーとつ

ちううま馬ハ特めこし又神奈

とーとてハのぞりーと

千馬菱

○おほわぐの松 おわごととて

人と葬時のうりなりといはわ

こころりーの葉のうふわつて

て禁をひれいし けきぐと鹿

お葉落葉ーの下ぎ

琴

大わぐの松の下ぎわねのうとて

武蔵太田井

○おほがわね松 お葉ゆきとて

近江老若

○おひその松 とのまほふとて

ほくほり 雪花の時鳥でいふ葉

トて木がしーくらバ雪とて

しめがに

大和

○やまの松 しーとて

大和

○ちーの松 しーびの時鳥

ひーの葉のうとて

ふくらーのん

山城

○ぬむの松

ま木

おのの葉のうとて

山城

○こぐの松 ーお葉つー里

日

○ころもでの松 い葉でい

鹿 お葉つー小井

伊賀

○いの松 ーほり

葉のーの葉のうとて

建の 木枯

○うぐーの松 木紫 ト草

伊豆 古く并

○うぐの乃松

枯さ

こふふねいふはさうていのけはの松

建中木紫

○こののの松 木紫 藤紫 里

城 雨松

○あめの松

供人木

又木

このかど紫いふうの松とあめの松おれとあ

伊豆 表其

○あられその松

名

うぐーにふねうぐーの松とあられの松

尾張 阿波

○あての松

不達 意うてふと

てはうてふとあてーりてつと

うり 伊豆 鳥 野 探 鹿 木紫

うー

建 青柳

○あてやどの松

桔 里

又木

うぐーにふねうぐーの松とあての松

日 栗 枯

青柳の松

○あての松

野 系 里 船 味

月 法 弓

○あての乃松

又木

忠定

うぐーにふねうぐーの松とあての松

山城 中

○あての乃松

町 系 木

又木

松うぐーの松とあての松

近江 万木

○うぐーの乃松 蝶 踏 青 と け 的 系

山城 神 經

○うぐーの乃松

搭 升 系

又木

後 系

うぐーにふねうぐーの松とあての松

日 美 豆

○うぐーの松 木紫 野 牧 川 木紫

山城の中

○ささぎの木の枝 時々の紅葉

又木

あま

松の葉の影をうけてふやふやと紅く

近に万木

○ゆきとて松の枝 緑の青くとて紅く

山城の中

○ささぎの木の枝 時々の紅葉

あま

又木

ささぎの葉の影をうけてふやふやと紅く

月夜

○ささぎの木の枝 時々の紅葉

きこへはちちてふめのおじとまとい
はる

○
○○○○
松
菱
紅紫

我々が、この世に生れたのは、何の爲にや。

○
やこの松

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or name, oriented vertically.

つるを松 入せたりと云ふ

聚 考 八 林

つきのどの杖ちえといふなまの

本がらうて子枝まゝれと

人一本様ふふり時を

望葛花紅紫下莖里

うぐいすの桶のくふくふと

○
の松
下
山田升（号）

徳くくの時をききわくその時の

この杖より

水糸 山長浦里原々島

○の松 井 寛 社

排方卯月とつじくし辛卯の辰と云
 昌云

○まゝの松

係属指いゝとひ扱あり世云ふうそふ

八雲
 せうし
 東三
 右
 赤の林
 鶴林
 仁藏

あの子林 玉の林 早の林 早の多き
とふ

紅

うゝ山林　　山林　　里の林　　雲

已上某

ひの林
うのの林

林といふ歌は、いふ木のいちふ
 といふく林といふとせうけき
 何一林は木のわきとて
 ふんわりと

乙戌
為益

○しんぶん林

奎源

叅

又木
さうのやうな林のふもとにね 今とはお別

月林

○つゝの林

傳

松子

ひうろくはひまの林

成雲林

○ろの林

雲林度々古寺小々々

柳 梯 子 堂 糸 奇

きくは

た今こ林ぼつとの方へ

今も林檎の木の
下で待つて居る

邊
取

月日
日とれいふふいふ
より人のまゝにあらぬが、
我もほろくしそ

卷之四

野

野と申る野系と傳へし

くろしうのふとつては、
是れ、
よけと

漢てハ世ハ又中何して

いふ、其の何れにしむをいふ

何の心をもたずして

野行とハのたしゆらうと法う

のらと、遊ばせあるはめうれと

そこの所のんよてもろくふ

子可也

いふ家と時ととと發音しけ

めんやむいこのふふふ

大正十一年

そのんぞそにかい塵字入む

三才圖會

越中伊波世

○いさや

張

新換

いふは、我々のものゆゑてふを、おとといと
なすべし

丹波生功

○くせくせとねんくうを

ふんてくゆりてつる

時鳥落ててくさくさ

鹿 荻 松 奥 山 崎 之 里

大江山渡合天抄三

石見
石見

○いゝ時 高角山 冬

梅下南

○
ハ
カ
ミ
ノ
ミ
ヤ
ノ
ミ
ヤ
ノ
ミ
ヤ

たれ^村
鹿^村
柏^村
^法茅^村

清水 所中志門
海島川浦

未勘入

未勘 空のなをへりてふ

死用と云ふ入世の事と後世

出 一 早 去 之 梯 籠 子 子

菰菜——鹿

得度の人の所初いひつゝ姉も泣きよと
入る

多分

甲斐 穂坂小

○ほろのふね 秋の田にーむ所

いふとつぎに皆熱といふ

滅鳥部

○
中
人送

読りた方ふいふふふ

出 多り孫のいふ

大和泊瀬

○とせゆ 室ふみーと清う山川

月
變

○
乙
己
卯
子
葉
梅
之
花
也

ひびろ 卯 乾 玄 黄 扶 玄 泥

日形小

とてしころしをいひて

河日支

○くくゆりこのの天 意持をきん

又忠孝をてむといふ

とくちとくち 菜とくち

雄子と之と居るを求む

菜とひらうづ鹿しら

意結 日あるのこりり
 意結 意結のこりり
 意結 意結のこりり

橘
之
系
山
水
龍
慶
天
川

院門日

伊智 忍升

○これゆゑの
かたがた
張るゝなり

わさね 菰 女 花 紅 葉 山 中

近江蒲生

○ろほよ地　　ろへてゝる

ぢづる
鶴
玉の
花
庚
子

日
膳

○うちゆくのそとに

のうと傍り又ふひくのうと

歩のふより 名葉を記

うづしびく系

鐵子獵路小

○くらげめお みるをーを

ふくろのしほ

あつち
われ萩うづき

化系

藏經

うづり
うづり

五
こ
川
橋
後
月
里
月
入
日

考田 陸合 五五 抑校 月

大和吉冲

○ 一 地 之 五 十 五 里 川

里月
億月

○今様

里馬つふととれまのむき

ひーこもーこりーと

○太れさあ
○うーうーとや
うーうーのやうに
さあのかうに

さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう

○日よ枕
○さうさうさう
さうさうのやうに
さうさうのやうに

ひーこもーこりーと

○四月玉田様
○さうさうさう
さうさうのやうに
さうさうのやうに

和泉玉横

○さうさうさう
さうさうのやうに
さうさうのやうに

名考

さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう

武蔵立地

○さうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう

杉林園鶏

○さうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう

末

さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう

近江託馬

○さうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう

万三

さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう

大和浪柴

○さうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう

やうの鹿

○さうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう

末

さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう

○さうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう

さうさうさう

○
乙

嘯

唐人志

伊勢やうり

いさふより花の匂ふより

伍後字冲

○ひろゆ

名義

旗幟て月夕社との浦の磯の空ぞふりぬ

山城門

○
3
5
7

芝

新後村

九事の門中のまゝに流しして香ふよ世のなご

日
凡
生

○
三
下

除よりうり山坂里

大和宇陀

○
う
や

一の太中をたうこのや
うにうこの太中をたう

學子爲茲鹿
焉能染渾衣

同
四
六

○うちの大井

五

とらる内の子をさうしておきぬるをま

進
字
裕

○
う
孫の世

前

一 鹿

年

神の

つるきふさ

近

り物まじりて後のふし所をさるるは

○あけ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

あけりーるもくーあ

○ *the first* 第一
○ *the second* 第二
○ *the third* 第三

○ *the fourth* 第四
○ *the fifth* 第五
○ *the sixth* 第六

○ *the seventh* 第七
○ *the eighth* 第八
○ *the ninth* 第九

○ *the tenth* 第十
○ *the eleventh* 第十一
○ *the twelfth* 第十二

○ *the thirteenth* 第十三
○ *the fourteenth* 第十四
○ *the fifteenth* 第十五

○ *the sixteenth* 第十六
○ *the seventeenth* 第十七
○ *the eighteenth* 第十八

○ *the nineteenth* 第十九
○ *the twentieth* 第二十
○ *the twenty-first* 第二十一

○ *the twenty-second* 第二十二
○ *the twenty-third* 第二十三
○ *the twenty-fourth* 第二十四

○ *the twenty-fifth* 第二十五
○ *the twenty-sixth* 第二十六
○ *the twenty-seventh* 第二十七

○ *the twenty-eighth* 第二十八
○ *the twenty-ninth* 第二十九
○ *the thirtieth* 第三十

○ *the thirty-first* 第三十一
○ *the thirty-second* 第三十二
○ *the thirty-third* 第三十三

○ *the thirty-fourth* 第三十四
○ *the thirty-fifth* 第三十五
○ *the thirty-sixth* 第三十六

○ *the thirty-seventh* 第三十七
○ *the thirty-eighth* 第三十八
○ *the thirty-ninth* 第三十九

○ *the fortieth* 第四十
○ *the forty-first* 第四十一
○ *the forty-second* 第四十二

○ *the forty-third* 第四十三
○ *the forty-fourth* 第四十四
○ *the forty-fifth* 第四十五

○ *the forty-sixth* 第四十六
○ *the forty-seventh* 第四十七
○ *the forty-eighth* 第四十八

○ *the forty-ninth* 第四十九
○ *the fiftieth* 第五十
○ *the fifty-first* 第五十一

○ *the fifty-second* 第五十二
○ *the fifty-third* 第五十三
○ *the fifty-fourth* 第五十四

○ *the fifty-fifth* 第五十五
○ *the fifty-sixth* 第五十六
○ *the fifty-seventh* 第五十七

○サドのそめめ
アハハハハ

わろお川はなぐさハ張合

紀伊 喚上ふ
○ふささわさの
為さへば

浦
溪
補
同

○ころしでのどけ 森 里日

名実
相合ふをいふ此の云ふは

日抄
〇乙内
坐乙松下
坐山室

方和哉

○この世に誤りあるの——と語り
まゝにまゝに之——虫一

日巨

○こせせし
又川くものこせのるせせ

玉桂山

○やゆゝの
まゐりしに

松原

山城
新自山裾

○あゝひふを

玉

新日へそやのれんの雪消て今も
みづい

太和何太丈

○わこの大井 人のふのあゝなりん
くちへて息と流り 娘女やむる

金松竹 野鹿

何
吾妻

○わがよむ
るびせむ
やう

寧丸水

日秋

地

呼子鳥 龍 石 川 宮

日何騎大

○よさのふれ、きき、きき

日安多師

○あづき
八雲あづき、清澄松

六名記

ふるふとそいつくは氏ふとく
とり只わてふとくといふ所これ
ふふと中有海とていふとくは
所といふとて一轉ねむ

移は 氏は小

○あさひとて 佐とていふとてあり
あかきとていふとていふとてある
とていふとていふとていふとてあり

日安計小

○あさひとて いふとていふとていふとて
やとていふとていふとて

日よ竹系

○あさひとて 妹とていふとてあり
はれとていふとていふとていふとて

進に集計

つあさひとていふとていふとていふとて
子螢とていふとていふとていふとて
はとていふとていふとていふとて

日阿信

○あさひとて いふとていふとていふとて 郭々橘

月新日

○あさひとていふとていふとていふとて
信とていふとていふとていふとて

万十二

○あさひとていふとていふとていふとて
人とていふとていふとていふとて

陸奥安達

○あさひとていふとていふとていふとて
てとていふとていふとていふとて

越前安達

○あさひとていふとていふとていふとて 夕月長

陸奥信也

○あさひとていふとていふとていふとて
業維とていふとていふとていふとて

筑おき城
○あーさけ 落とるー

山城
○さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

落とるー 大宮人 系ふ

北中
○さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

鳥あらし 落とるー 官杜系

日中
○さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

長門
○さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

陽田
○さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

陰心法降
○さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

凡物
○さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

日美豆
○さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

大和
○さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

武彦
○さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

廣奥官城
○さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

○さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

○さぐれしはるのそ うれせのさぐれし

大和路火
○とづいの系いん系系地等方には

相撲 碓上
○とづいの系いん系系地等方には

浦近いん系系地等方には
○ちりの松系ちん系

○ちりの松系ちん系

○ちりの松系ちん系

○とづいの系いん系系地等方には

○とづいの系いん系系地等方には

○とづいの系いん系系地等方には

○とづいの系いん系系地等方には

○とづいの系いん系系地等方には

○とづいの系いん系系地等方には

○とづいの系いん系系地等方には

○とづいの系いん系系地等方には

○とづいの系いん系系地等方には

○とづいの系いん系系地等方には

○とづいの系いん系系地等方には

○とづいの系いん系系地等方には

○とづいの系いん系系地等方には

○とづいの系いん系系地等方には

血に勝たし
うららのの系 糸地井のひよふ

目 柏系
○うららの系 柏とふり

歌に猫跡
○うららの系 糸地井のひよふ

歌に伝網
○うららの系 糸地井のひよふ

山崎竹田
○うららの系 糸地井のひよふ

石巻備系
○うららの系 井

武蔵立井
○うららの系 糸地井のひよふ

近江玉井
○うららの系 糸地井のひよふ

信濃系
○うららの系 糸地井のひよふ

外 鹿系 糸地井のひよふ

多岐系 糸地井のひよふ

つづきの系 糸地井のひよふ

つづきの系 糸地井のひよふ

つづきの系 糸地井のひよふ

つづきの系 糸地井のひよふ

つづきの系 糸地井のひよふ

つづきの系 糸地井のひよふ

つづきの系 糸地井のひよふ

つづきの系 糸地井のひよふ

○まはる
うさねの系

○のうやの系
る日

○おほ系
いふまゝさる日

○おほ系
武蔵大を我武三

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○まはる
うさねの系

○のうやの系
る日

○おほ系
いふまゝさる日

○おほ系
武蔵大を我武三

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

○くせの系
ふの系

日越松
〇このの松原 陸凡とらり

橋下松
〇このの松原

山崎河原尾
〇あとの松原

日河太正
〇あとの松原

赤松原
〇あとの松原 片葉のーあか

まきとけき 松子雲左枝松 書松

橋下松 〇あとの松原 片葉のーあか

赤松原 〇あとの松原 片葉のーあか

日河太正 〇あとの松原 片葉のーあか

赤松原 〇あとの松原 片葉のーあか

日河太正 〇あとの松原 片葉のーあか

日河太正 〇あとの松原 片葉のーあか

日河太正 〇あとの松原 片葉のーあか

日河太正 〇あとの松原 片葉のーあか

日河太正 〇あとの松原 片葉のーあか

日河太正 〇あとの松原 片葉のーあか

日河太正 〇あとの松原 片葉のーあか

日河太正 〇あとの松原 片葉のーあか

日河太正 〇あとの松原 片葉のーあか

日河太正 〇あとの松原 片葉のーあか

長に安武

○あふのねふ ふうーと流り

日阿次郎

○あふのねふ 旅とふり

淡路渡り

○あふのねふ 旅とふり

山賊渡り

○あふのねふ 日 山寺

日阿次郎

○あふのねふ 日 宮社

日阿次郎

○あふのねふ 旅とふり

山賊渡り

○あふのねふ 日 山寺

日阿次郎

○あふのねふ 旅とふり

山賊渡り

○あふのねふ 日 山寺

日阿次郎

○あふのねふ 旅とふり

大和三宅

○あふのねふ 旅とふり

日阿次郎

○あふのねふ 旅とふり

山賊渡り

○あふのねふ 日 山寺

日阿次郎

○あふのねふ 旅とふり

山賊渡り

○あふのねふ 日 山寺

日阿次郎

○あふのねふ 旅とふり

山賊渡り

○あふのねふ 日 山寺

日阿次郎

○あふのねふ 旅とふり

山賊渡り

○あふのねふ 日 山寺

日阿次郎

○あふのねふ 旅とふり

山賊渡り

○あふのねふ 日 山寺

越中三三

○ころーはが京 京おせのふよ玉

○城盛京

○志ろろろが京

赤集

わてこ盛う事しき候うむむ人のほろ

日志は

○まが京 里

近江藤京

○志の京 せらのー かろふ盛

下野標茅

○志えじり京 志もつやー 藤

赤

赤

松野あまろろろ盛ろー 赤盛世中あろろ

陸奥信丈

○志のぶ京 志ふ盛盛浦日里杜

加賀文盛京

○志の京 志ぬ 志ぬにー 盛り

肥前盛京

○志盛京

河内石室

○りーが京 ーせりー

相模諸越

○り盛ーの京 志やとて盛り

かぞーこー里

志盛盛京

○せろろ京 當

牧

牧のま約と牧約ろろろろ

ろろろろろろろろろ

懐土盛盛京

○いゑー盛のー牧 八重ろろろ代牧

甲斐穂坂

○ほろろの牧 秋の田のー 為約盛

赤

ほろろの物ところろー

志盛

おほのまろろろ牧の田とろろ約とびつ

○牧

赤

甲斐 倍見

○へこの牧 小基

西条

おろのりていふはきりしの牧のゆゑなり

○城 鳥養 八雲

○とつこく人の牧

あきやせ

○この牧

秋

おま

名産のりていふはきりしの牧のゆゑなり

武彦 五郎

○この牧 名産のりていふはきりしの牧のゆゑなり

陸奥 奥牧

○この牧

十

無法

名産のりていふはきりしの牧のゆゑなり

旧尾駮

○この牧

後継

陸奥のりていふはきりしの牧のゆゑなり

旧荒井

○この牧

あき

後成

陸奥のりていふはきりしの牧のゆゑなり

信濃 切京 八雲

○この牧

秋

おろのりていふはきりしの牧のゆゑなり

山城 五郎

○この牧 名産のりていふはきりしの牧のゆゑなり

信濃 望月

○この牧

陸奥 奥牧

○この牧 海産

田

金

秋田 名産のりていふはきりしの牧のゆゑなり

ら、おろのりていふはきりしの牧のゆゑなり

い、おろのりていふはきりしの牧のゆゑなり

る、おろのりていふはきりしの牧のゆゑなり

う、おろのりていふはきりしの牧のゆゑなり

ら、おろのりていふはきりしの牧のゆゑなり

そ、おろのりていふはきりしの牧のゆゑなり

城鳥記

○とバ田
ととと田
う菜
時鳥
堂一鹿

稻妻鴨鶴居大江山後今
山縣西里日

日小

○とろく山田 山郷里日

近江吉田

○
田
里
村

表上

匡房

竹田

○
田
里
驤
阿
原
阿
原
阿
原

7

貧富

○
く
う
田

文木

忠定

とくちきふくしの水と種あり一ふ男の山ハ早苗

紀伊 田中 升平

つとむりのわど
ふん 鹿 ありごふ

この紫

同史侯

おそなる甲のふみは凡そ掃きとて襪を
35

馬鹿度田

○ひろ田やうのいふやうだ

三

侯爵 堯甲

○
田

ふ
ろ
ろ
ろ
ろ

歲次

○ろゝの山田
越川
新田

中乃曰王水曰

伊尹

○戸田 新井 氏

是木

六

苗代の水とやほをれは苗のうへより

藏
伏
見

しやいのと田界の
ア
る
う
う
う

鹿店山驢里井日

大和布為早

○よるのいづれに
田甲のふりしむの申す

入てとよみ

伊吾荒城

○あつゝ田のうへ

五

信芳 安恒濟

○あのみうし田 河原 松原

後何部

○ろく田のふりきり

血取田

○さう田

さうこのいねと後り

○我佐田

○さの田

さのいねと後り 田

○我佐田

○さう田

さうこのいねと後り

○さう田

○さの田

さのいねと後り 田

○我佐田

○さの田

さのいねと後り 田

のいね

○我佐田

○さの田

さのいねと後り 田

○我佐田

○さの田

さのいねと後り 田

橋

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

さうこのいねと後り

○やぐらの橋

老以讀之

○さへはたの松 糸はのー ぬのさへ
さへー山のさへーのさへーさへー
松さへー人約はぬのさへー入はぬ
糸さへーさへー

京一ノ山

○由江正生法
そつどの

支木

拔伸
屈伸

○
何
ア
え
の
格

狀元松

芳

大和惠撫

○とぐろとの摺りれと人

江表志

○とさへ乃摺 平河のー 荻

笑

陸龜十經

[illegible]

千求

徳興のふりまふり

陸奧文治

○とぞの橋　とぞとやう

てちやうせうとちやう

近江千束

○らつろの榜　くぶとつとにせう

佳興小何

○とつたの擧めありて後

日
緒
始

○
の括弧のーはらう
のーはらうのーはらう

山城唐摺

橋

冬宜病也

○うりの格うたてうはかり

紀傳之序

○しうの控

卷之五

五ノ山ノふたつにカキノ木一十二本

萬古生間中

〇ころはの橋

七

ろくさんれん橋よりふぶき...
しりり時きる一千ききり
大い山さやのふのそとれん...
千枝

多かきやわたり
多かきやわたり
多かきやわたり

○さびえんの橋

伊勢 幸橋

○さいごいの橋

大蔵もを
おりーこころもわいてゆへん幸のうとて
そい 佐五

○さる橋

市佐や舟近に有る大蔵今も久し
○さのくぬふ橋 ありし人泊る

さるのーうしつちのー

万

後撰

うしつちの舟橋...
後撰のうしつちの舟橋...

○佐後 密語

○さついの橋

信使 木芳

○さやのくち橋 さいちのくち橋

さるのー信使るるー

伊勢 由流 佐或伊手

○ゆりごさの橋

伊勢 乱橋

○さや橋

さい三香や

○さうの橋

近は 水底

○さかやこの橋 五月五日より

○さけがハの橋 ね

○山城の檣

此書之部必方定一地區之明也

鄂 3-50

大坂
百五の勢四の備の一松をふくむにあり

此の巻
○世このなが橋 ぬゆの。一 辰五ノ

新在 雲霞の如くの一の坂 未結 零

此の板、昔より蔵ぶる来世に於て
 必し 必し

[Handwritten signature]



Handwritten text in Devanagari script, likely a signature or name, appearing as a scribble.

[illegible]

伊豆伊豆

〇〆の海

澤金太

伊豆伊豆

〇〆の海 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

石見石見

〇〆の海 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

播磨播磨

〇〆の海 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

土佐土佐

〇〆の海 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

香取香取

〇〆の海 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

〇〆の海

〇〆の海 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

〇〆の海

〇〆の海 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

〇〆の海

〇〆の海 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

〇〆の海

〇〆の海 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

ごきり 伊豆伊豆の海 伊豆伊豆の海

歌中奈異

○やぐの海

いね菜　よき町と

の村鳥鶴つりみわぬ海にわい
わいの凡　しほり　貝松

海

に磯浦

○しろの海

糸也川の海

海は猪名也

○あふの海

中瀬川

云云

陸房

陸房能登

いん

○のくの海

ゆきとく人　うり火

伊勢若生

○あふの海

糸也浦の海

陸奥奥海

○あふの海

あふの海　あふの海　あふの海

あふの海　あふの海　あふの海

あふの海　あふの海　あふの海

肥前

○あふの海

あふの海　あふの海　あふの海

あふの海　あふの海　あふの海

歌助

あふの海　あふの海　あふの海

陸奥奥海

○あふの海

歌中歌海

○あふの海

あふの海

相模

○あふの海

玉藻

相模

○あふの海

歌中歌海

○あふの海

あふの海　あふの海　あふの海

長門

○あふの海

あふの海　あふの海　あふの海

あふの海　あふの海　あふの海

筑前

○あふの海

あふの海

記伊 記伊 後ふしう川中にて

○いづの海 東の海

○いづの海 東の海

○いづの海 東の海

○いづの海 東の海

浦

群林抄うといふ人よへちや
ういづといふ人よへちや
ういづといふ人よへちや
ういづといふ人よへちや
ういづといふ人よへちや
ういづといふ人よへちや
ういづといふ人よへちや
ういづといふ人よへちや
ういづといふ人よへちや
ういづといふ人よへちや

浦凡ういづ浦ういづ
ういづういづういづ
ういづういづういづ
ういづういづういづ
ういづういづういづ
ういづういづういづ
ういづういづういづ
ういづういづういづ
ういづういづういづ
ういづういづういづ

○いづの浦 東の浦

○いづの浦 東の浦

○いづの浦 東の浦

○いづの浦 東の浦

○いづの浦 東の浦

○いづの浦 東の浦

○いづの浦 東の浦

樓下南
只此の浦
り火
此
海

純伊 破石
○いせよの浦 林 吟のやい
千冬

とちりね火うつと貝藻ふじ

只此の浦
時多知は菊藻より

たよりせよ小舟

○きんくわん
うづらの浦 海 捨 涼 川

加多連浦
○いとの浦

後速見

○もやいの浦を流る

出のし
海浦

○少との浦

卷八

○あゝの浦

志
廣
後
浦

志戸 彦浦
○やいとの浦
いふ貝
ついでる貝

壹改保老手

のほりての浦

恒智 弘德

のどぐろの浦 時子とみれ 月

陸奧十翁

○ふの浦とがごもいふふさ藤

伍後韞浦

○もつ浦
じろの本
と保
り

長門時浦

○ととの浦
ととれ貝

上德

○らるゝの浦貝漬

文木

又木
望月よその浦の汐風よ娘ふさぐの信
お伊多
定家
お伊多

紀伊
多

○らゝの浦
おろく

伊勢鳴呼

○ととの浦
とちよは浦
とん

陸奧雄略

○
うまの浦 大やうと
とまふ

方之入所て東地未修と云

るん可良
うの浦
しり

松中勝る
うの浦
岸の松松子目宮

に竹飛ん
うの浦
いぐきーと張り

うろ
うの浦
と貝子きと

丹後子附
うの浦
まね海のいよ

をい
うの浦
こらまと張り

うの浦
うの松

うの浦
早苗の浦
り

赤人
うの浦
うの松

うの浦
うの松
うの松

うの浦
うの松

相模 祇浦

うの浦
うの松

うの浦
うの松

うの浦
うの松

うの浦
うの松

うの浦
うの松

うの浦
うの松

うの浦
うの松

うの浦
うの松

うの浦
うの松

うの浦
うの松

うの浦
うの松

○おろし竹たけ

○おろしの浦 おろしの

おろしの浦 おろしの

○おろしの浦

○おろしの浦 おろしの

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

○おろしの浦

日岸

後撰

ハ

難波はとくたの浦とふとや世に海は
於達 人か

難波人若大焼やまゝとれとてまふ
後撰 社田

むわらん人ませやつの家の難波とて風雲の
社田

難波とて短きまのあねとわて世とて
いせ

つれとわてとてなふとわてとて
日長居

○なづかの浦 ちとんとて
子さうさつとねとれん使
此 九月叙 伊約 漢人

日明毛

○なづかの浦 松とていふわな
ふとていふ松又なるとの松
又とていふ月ふらふとて

又とていふ月ふらふとて

日繩浦 成とていふ鹿ふとて
○なづかの浦 紅葉ふとて
日 灘田

○なづかの浦 磯とていふ
人 梅松

わてとていふ松とていふ
わてとていふ松とていふ

尾張 海
○なづかの浦 ちとんとて
そととて

○なづかの浦 ちとんとて
ちとんとて

○なづかの浦 ちとんとて
ちとんとて

○なづかの浦 ちとんとて
ちとんとて

○なづかの浦 ちとんとて
ちとんとて

○なづかの浦 ちとんとて
ちとんとて

丹波 洞浦

○かきくこの浦

わび貝お藻磯

長門 長門

○かぎとの浦

紀伊 志摩

○かきくこの浦

紀伊の浦のーと海

日 夏 寒

○かきくこの浦

河内 河内

○かきくこの浦

千多貝お人おき 舟人注の

舞 衣 宿

ーそのは風吹て 門 沖

○かきくこの浦

板付 武庫

○かきくこの浦

千多つるをきつる 糸 け 浦

山 白 海 川 住 者 氏 菅 野 同 町 町

但馬 孫浦

○かきくこの浦

塩 戸 室 浦

○かきくこの浦

龍 崎 独 解

○かきくこの浦

肥 後 中 津

○かきくこの浦

板 付 大 津

○かきくこの浦

佐 賀 大 津

○かきくこの浦

千多 鶴 松 大 津 の ー 貝 け 浦

大 津 の 浦

多 千 多 浦

千多 貝 け 浦

○かきくこの浦

板 付 大 津

○かきくこの浦

千多 貝 け 浦

卷之五

三
卯
浦

相撲 大碓

のかほいぎの浦ねほ

大隅 大隅

○
あひくまの浦

按此三句

○まの浦 小者の屋敷 持持一池

下
松間々

の浦の浦と後

是
わぢのそは舟仲つゝ
はたの

度輿
松崎

○ヤノハの浦 系也の記よ

淡路松帆

○中川の浦 金藻よりい

德政如雲

○すの浦は
志見

肥
子
松
甫

○やうの浦 幸の海のはしり

和泉吟

○ササの乃浦
をさるゝ

多々
探
千多
一
松
多
多

二見 挽枕浸雪

○わさくの浦菊
たゞ夏の一
花

ぐ
く
貝千
夕
ち

の
と
り

○ふちの浦

日
龜
浦

○あえの浦

按
廣
二
元

○
この浦
やむけ
夕月夜
荒波

同
茲以

○くらえの浦 かのー どのー

舟後延浦

○あまの浦 くの浦のーとる貝

○わづの浦 くりとりのーとる

河より船長鹿のう丁より 松島

浦のーとるや 沖のつらふ 左舟鶴

崎 磯人 江戸浦のーとる 江戸中

舟後 磯

舟のーとるの浦のーとる 舟より 舟

舟のーとるの浦のーとる 舟より 舟

舟のーとるの浦のーとる 舟より 舟

舟のーとるの浦のーとる 舟より 舟

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

○あまの浦 くの浦のーとる

山王憶云
德松詩
德松

○ちめの浦
をらりて度々見おひ

月三

烟浦人

紀序

結河三保

三

陸奥三津江

壹
海松月

いづち乃浦 亭まで降りる

○志之川の浦　　ふねまゝ　　又佐々

8

嘉

○

○
ふ
か

庚寅

角

友方大

秋
方

はるあ

信

14

星同土同

志加

の
備

火
あ

補

方甫

劍

孫付住者

○この浦のおとぎにうり 鶯

むき 町子 菊 所 後 丁 子 子 子

草 岸 鶴 三 貝 子 川 貝 子 と 子 子

津 舟 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

中 日 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

歌ふ候

○いらの候 ふき 為 紫 下 見 たる 小 見

撫 廣 揖 保

○いらの候 ふき づ 舟 郎 の 湊 泊

紀 伊 船 代

○いらの候 友 候 松 久

伴 手 石 蔵

○いらの候 西 人 一 之 所 崎

志 戸 屋 花 氏

○いらの候 舟 郎 舟

伴 手 石 蔵

○いらの候 七 夕 と 候

舟 後 為 世

○いらの候

伴 手 子 爵

○いらの候 久 松 家

上 総 子 草

○いらの候 見 海

松 玄 子 酌

○いらの候 出 づ づ 一

紀 伊 十 里

○いらの候 未 だ 一 一 未 だ 候

同 十 里

○いらの候 この 小 一 一 候

松 玄 鳴 呼

○いらの候 こ ち 家 甫

上 総 形 久

○いらの候

紀 伊 風 莫

○いらの候

名 然 喚 續

○いらの候 ら づ 一

舟 後 五 代

○いらの候

和 泉 子 郎

○いらの候 和 泉 子 郎 一 十 三 一

伴 手 同

○いらの候 松

同 十 里

○いらの候 松 月

同 十 里

○ねぼろの演

城の角鹿

○つのもれ演 紙の海の一太極

持持 長居

○ながめの演 多心浦よど

口 長柄

○ながの演 ふれん持持

口 那古

○なまの演 多心浦よど

口 長岡

○ながの演 紙の海の一

口 並演

○なまの演 多心浦よど

口 長居

○ながの演 多心浦よど

口 那古

○なまの演 多心浦よど

口 長岡

○なまの演 多心浦よど

口 那古

○なまの演 多心浦よど

口 長居

○ながの演 多心浦よど

口 那古

○なまの演 多心浦よど

口 長岡

○なまの演 多心浦よど

口 那古

○なまの演 多心浦よど

口 長居

○なまの演 多心浦よど

口 那古

○なまの演 多心浦よど

口 長岡

○なまの演 多心浦よど

口 那古

○なまの演 多心浦よど

口 長居

○なまの演 多心浦よど

口 那古

○なまの演 多心浦よど

上段思戸

○くらどの侯 白菊日

○くらし侯

○くら金銀の侯

同 同々

○くらこの侯 青い

我中吹升

○くらこの侯

撫テ船来

○くらこの侯 金さびのー

紅吹

○くらこの侯 撫菊 青い

くらし見 承人 磯枕 五砂 南晴

くらしと 承り 若白 山坂 侯人 菱京 郭ト

秋凡の氣 くらし 承り 白菊 八む くらし 承り 五砂 南晴

わすくらし 承り くらし 承り

中吹

○くらこの侯 浦凡のー

遠所許奴英

○くらこの侯 居候のー 千々ね

撫テ多侯

○くらこの侯 ね系

上段 撫侯

○くらこの侯

持付 杖等

○くらこの侯 はの 承り 見 承り

持付 細代

○くらこの侯 菊

撫テ 昭々

○くらこの侯 系 承り 浦 承り

我中 吹升

○くらこの侯 侯 承り 州 承り

我中 企 承り

○くらこの侯 承り 承り 承り 承り

他 承り

○くらこの侯 承り 承り 承り 承り

- 歌中 奈古
 ○ふくの 倭 倭風と云ふ 主母ゆき
 母母世々
 ○あふの 倭 鹿 十子 鶴 松 西 中 川
 月之倭
 ○あふの 倭 主母浦玉
 倭世々倭
 ○ふくの 倭
 主母世々
 ○あふの 倭
 此世由
 ○あふの 倭 主母鹿に 友奴と母
 主母長母 主母上中川と 倭世々
 主母
 主母と云ふ 主母今と云ふ事 主母世々
 主母三時
 ○ふくの 倭 主母の 主母浦玉
 主母白世
 ○あふの 倭 主母人



1247

